

ビッグバン及び泉ヶ丘公園基本計画

令和 4年 3月

堺市

目次

第1章	計画対象地の概要及び計画の位置づけ	1
1.	計画策定の背景と一体運営の意義	1
2.	計画対象地の概要	2
1)	全体	2
2)	ビッグバン	4
3)	泉ヶ丘公園	9
4)	隣接施設	17
3.	関連する計画	18
1)	本計画の位置づけ	18
2)	関連する主な計画	18
4.	SDGs の視点について	20
第2章	計画対象地の特徴	22
1.	泉北ニュータウンの特徴	22
1)	地域の沿革	22
2)	人口構成	25
3)	市民アンケート	28
2.	泉ヶ丘エリアの特徴	30
3.	ビッグバン及び泉ヶ丘公園の特徴	31
1)	ビッグバン	31
2)	泉ヶ丘公園	33
第3章	基本的な考え方	34
1.	基本理念	34
1)	ビッグバン及び泉ヶ丘公園の将来像	34
2)	ビッグバン及び泉ヶ丘公園のコンセプト	34
3)	ゾーニング計画	35
2.	想定する利用者層と利用イメージ	37
3.	エリアの回遊性向上	38
第4章	ビッグバンのリニューアル運営方針	39
1.	基本方針	39
2.	利活用のイメージ	39
3.	フロア計画	40
1)	1階（宇宙への旅にいざなう）	40
2)	2階（豊かな想像力を育む）	41
3)	3階（子どもが主体で交流する）	42

4) 4 階及び遊具の塔（広い視点を身につける）	43
4. 事業イメージ	44
1) 交流広場の活性化（エリアをつなぐ）	44
2) 館内活動の館外への展開	45
3) 宇宙や SDGs をテーマにした新たなコンテンツ	46
第 5 章 泉ヶ丘公園の整備運営方針	47
1. 基本方針	47
2. 利活用のイメージ	47
3. 整備運営方針	48
4. 動線計画	49
1) エントランス	49
2) 園路（公園内外がシームレスにつながる）	50
5. ゾーニング	50
1) 冒険の森（地球を活かし遊びを創造する）	51
2) ふれあいの森（人と地球との共存を学ぶ）	52
3) 陶邑広場（人が生み出した文化を知る）	53
6. 概要平面図	54
第 6 章 民間活力導入検討の背景及び事業手法	56
1. 民間活力導入検討の背景	56
2. 事業手法	56
1) ビッグバン	56
2) 泉ヶ丘公園	56
3. 今後のスケジュール	56

第1章 計画対象地の概要及び計画の位置づけ

1. 計画策定の背景と一体運営の意義

【計画の背景】

泉北ニュータウンは1967年のまちびらき以来、西日本最大級のニュータウンとして、緑が多く暮らしやすい住環境を提供してきた。一方、居住人口は1992年をピークに減少し続け、人口減少・高齢化が課題となっており、若年層、子育て世代にとって魅力ある生活環境を整えていく必要がある。

2021年3月に策定した「堺市基本計画2025」においては、2025年度に達成すべきKPIとして「泉北ニュータウン全人口に対する39歳以下の人口割合（30.5%）」を掲げ、ビッグバンと泉ヶ丘公園を一体的に活用し、子どもが創造的に遊び、学び、愉しめる拠点を整備することにより、子育て環境の充実を図ることとしている。

同年2月に計画全体をゼロベースで見直して新たに策定した「堺市SDGs未来都市計画（2021～2023）」においては、未来を担う子どもたちの成長を支え、多様性を認め合う、誰一人取り残さない社会の構築を推進することとしている。

また同年5月、泉北ニュータウン地域が、将来にわたって「持続発展可能なまち」をめざした「SENBOKU New Design（センボク・ニュー・デザイン）」を策定した。その一環としてビッグバン及び泉ヶ丘公園の一体活用に取り組む。なお、同年4月に大阪府から、ビッグバン・後背地の無償譲渡及びビッグバン敷地の無償使用を受けている。

【ビッグバン及び泉ヶ丘公園一体運営の意義】

ビッグバンは、子どもと保護者で遊びと学びを一緒に体験できる施設で、年間約25万人が利用している。一方、泉ヶ丘公園は、駅からの徒歩圏内でありながら、緑豊かな広大な空間が最大の魅力である。

ビッグバンでは「宇宙」をテーマに、本物の宇宙技術の紹介やJAXA等の宇宙関連団体と連携した取組を進め、泉ヶ丘公園では「地球環境」をテーマに自然環境や地形、百舌鳥古墳群に関連する歴史的資源を活かした、フィールドワークや遊びの機会を提供する。

両者の強み等を一体的に活かすことで、泉ヶ丘エリアに「新たな価値を創造」し、「子育て・子育て、宇宙技術体験・発信、SDGs・歴史文化の教育の拠点」としてエリアを先導する役割を担うことで、子どもが未来への希望を抱かせる運営をめざす。

2. 計画対象地の概要

1) 全体

ビッグバン及び泉ヶ丘公園のある泉ヶ丘エリアは、泉北ニュータウンの中心地である。泉北高速鉄道泉ヶ丘駅付近は商業地域であり、泉北高島屋・パンジョ、泉ヶ丘ひろば専門店街を始めとし、数多くの商業施設が立地する。また、エリア南西部には大蓮公園が立地し、緑豊かな環境が整備されているほか、エリア北東部の泉ヶ丘プール跡地等には近畿大学医学部・大学病院の移転が予定されている。

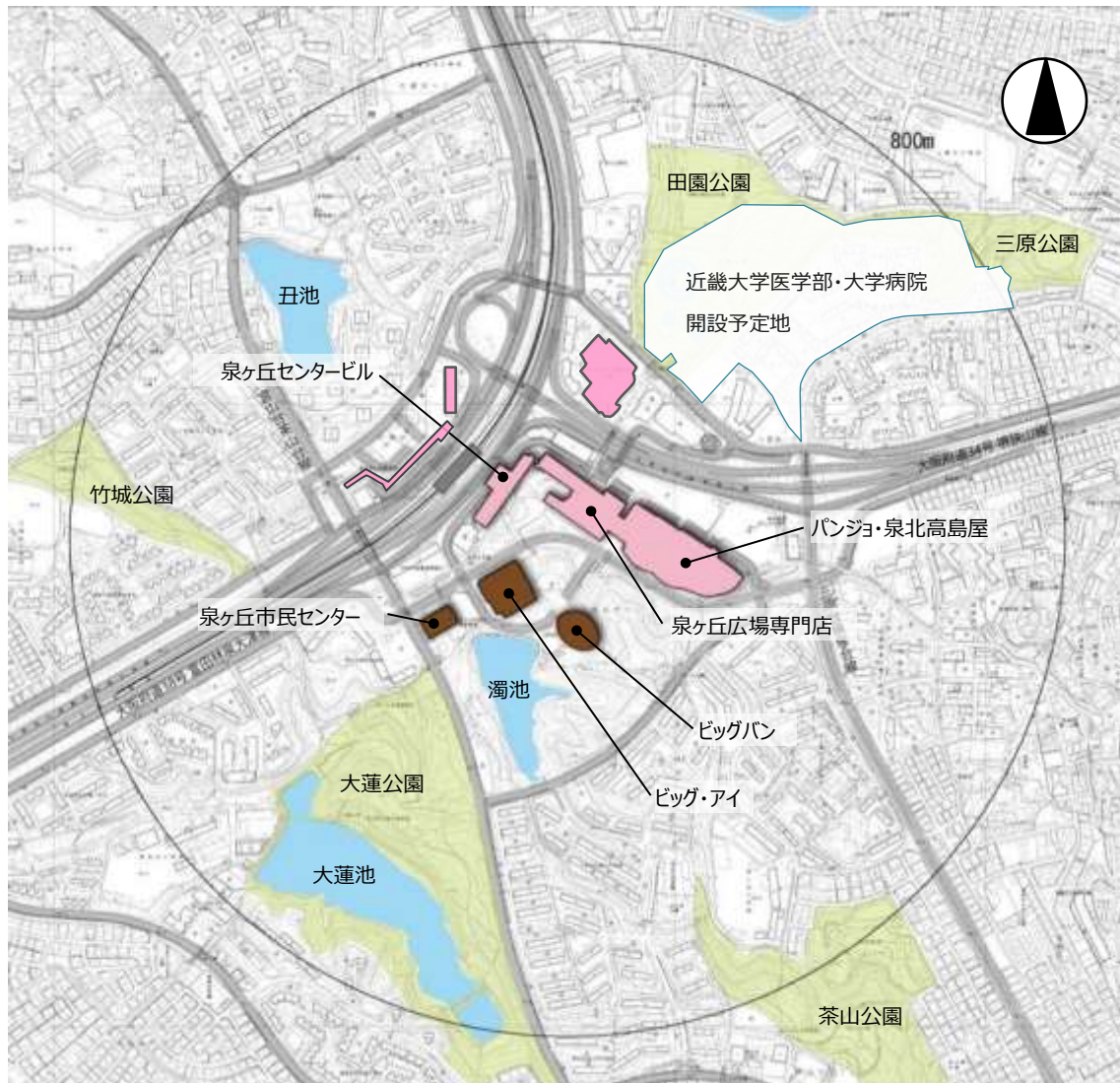


図 1-1 泉ヶ丘エリア（円は地区センター中心から約 800m 圏）

ビッグバン及び泉ヶ丘公園は、泉北高速鉄道泉ヶ丘駅南側に隣接し、駅からデッキで直接アプローチが可能である。北側には、泉ヶ丘市民センター（南図書館等）、ビッグ・アイが隣接し、西側には、市道宮山台茶山台線を挟み大蓮公園（風致公園）、南側には、市道茶山台線を挟み公的賃貸住宅等がある。



図 1-2 計画対象範囲



図 1-3 泉ヶ丘公園航空写真

2) ビッグバン

ビッグバンは泉ヶ丘駅南側に隣接する、児童福祉法第 40 条の児童厚生施設である。

表 1-1 ビッグバンの概要

名称	堺市立ビッグバン
所在地	堺市南区茶山台 1 丁 9-1
概要	・「遊び」をテーマに設立された、主に幼児から小学校低学年までを対象とした屋内遊具施設。 ・宇宙をテーマとしたストーリー性を持つ。
料金	大人 1,000 円、中学生 800 円、小学生 800 円、 幼児(3 歳以上)600 円、幼児(3 歳未満)無料
来館者数	247,279 人(2018 年)
設立年	1999 年(平成 11 年)、2021 年(令和 3 年 4 月 1 日)に大阪府から移管
面積	土地面積 98,268 m ² 、建築面積 6,530 m ² 、延床面積 13,016 m ² 地上 5 階、地下 1 階。そのほか、交流広場、屋外冒険遊び場あり。



図 1-4 ビッグバン外観

① 1 階

- エントランスを入ってすぐは無料エリアであり、自由に出入りすることができる。有料エリアは階段及びエレベーター周辺のみである。
- エントランスの前には交流広場が広がっているが、現状あまり利用はされていない。
- こども劇場は約 300 名を収容可能。固定席がなく、自由度の高い造りとなっている。



図 1-5 ビッグバンフロア図



図 1-6 階段トリックアート



図 1-7 こども劇場

② 2 階

- ベアルの修理工房などのワークショップスペースや子どもの創造力・好奇心を引き出すコンテンツがあるものの、電子動物園などは機材の老朽化が進んでいる。
- 一方、お菓子作りなどができるスペースキッチンには状態が良く、今後も活用することが可能である。



図 1-8 ビッグバンフロア図



図 1-9 ワークショップスペース
(ベアルの修理工房)



図 1-10 ハートイピア電子動物園

③ 3 階

- 3階はマチカネワニの遊具をはじめ人気の遊具が多く、最も人気のあるフロアである。

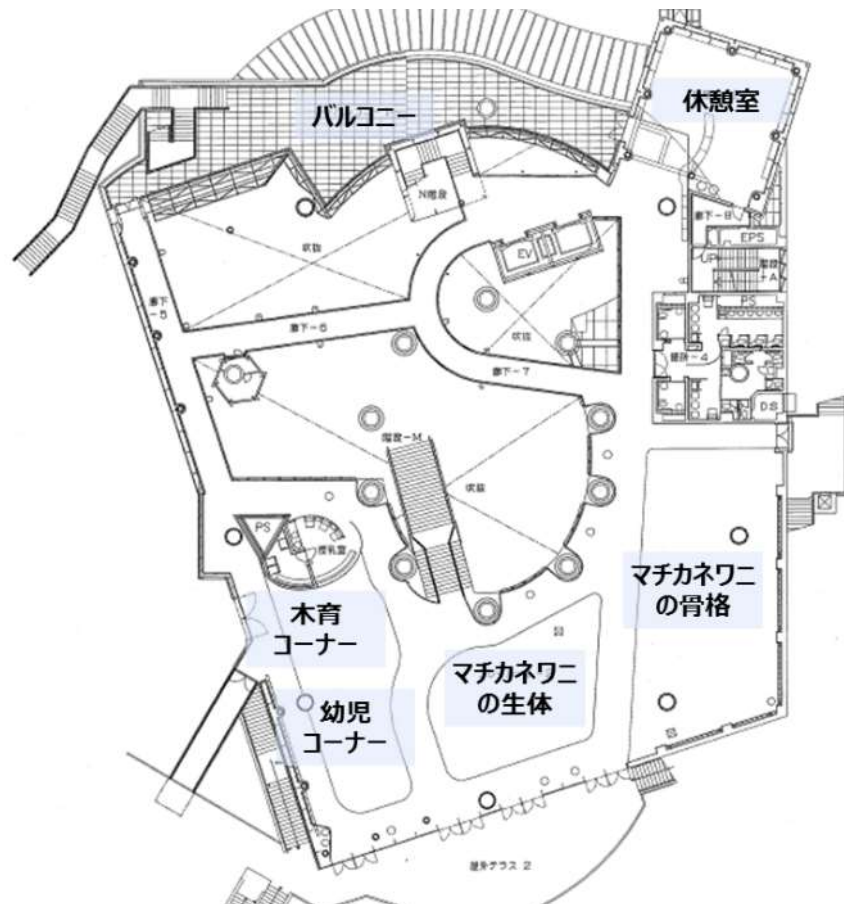


図 1-11 ビッグバンフロア図



図 1-12 マチカネワニの生体

④ 4 階・遊具の塔

- 各種展示物があるが、老朽化しているものが多い。
- 遊具の塔はビッグバンのシンボルでもあり、非常に人気がある。

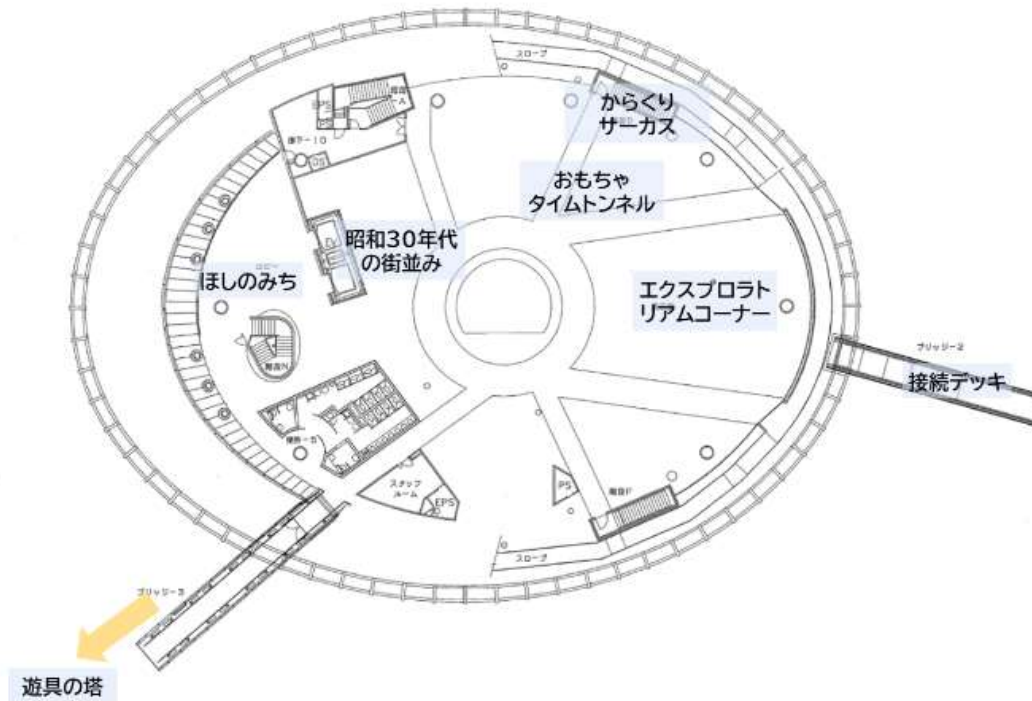


図 1-13 ビッグバンフロア図



図 1-14 昭和 30 年代の街並み



図 1-15 遊具の塔

3) 泉ヶ丘公園

泉ヶ丘公園は泉ヶ丘駅南側に広がる都市計画公園であり、駅前の好立地に約 5.5ha（うち濁池約 1.6ha（満水面積））の広大な敷地を持つ。

表 1-2 泉ヶ丘公園の概要

名称	泉ヶ丘公園
所在地	堺市南区茶山台 1 丁地内
公園種別	地区公園
公園面積	約 5.5ha
都市計画	令和元年 7 月 17 日都市計画決定 南部大阪都市計画公園 (4・4・201－16 号 泉ヶ丘公園)



図 1-16 泉ヶ丘公園位置図

① 自然的条件

ア. 気候

- 気候は瀬戸内海式気候に属し、細かくは泉北ニュータウンのある南部丘陵部は「泉南海岸及び和泉丘陵気候型区」に入る。
- 年間平均気温は、16～17℃と温暖であり、降水量は年間 1,000～1,500 mm程度で全国的に見ても少ない方である。
- また、年間平均風速は約 2～3m/秒程度で海陸風のため東風と西風の出現頻度が高い。
(出所：堺の環境 2018)

イ. 地勢

- 計画地は、海拔 83～113m程度となっており約 30m の高低差がある。
- また、計画地のある丘陵地の表面地質は、新生代第 4 期古層に属する泥、砂、礫の互層よりなる洪積層（大阪層群）である。（出所：堺の環境 2018）



図 1-17 泉ヶ丘公園周辺の地勢

出所) 国土地理院デジタル標高図

- 濁池西側は比較的高低差が少なく、公園の南北から入りやすい構造となっている。
 - ✓ 濁池の北側は濁池を見通すことができるが、有刺鉄線付きの柵が整備されている。(図 1-18⑤)
 - ✓ 濁池の東側の動線付近は、周囲を木々に覆われ、ほとんど池を見通すことはできない。(図 1-18①②④)
 - ✓ 公園の最も南西部分には、ビッグバンの臨時駐車場が整備されている。(図 1-18③)



図 1-18 泉ヶ丘公園の現状（濁池西側）

- 濁池の東側は高低差が大きく、ちょっとバンを除き大部分が林である。
- ✓ ちょっとバンは、ビッグバンの裏山を活用したビッグバンの屋外活動事業であり、このエリアには、屋外遊具や鉄道車両が設置されている。(図 1-19③～⑤)
- ✓ ちょっとバンから濁池に向かう獣道の途中には広場がある。(図 1-19⑥)
- ✓ 濁池の岸も木が多いものの、一部箇所からは水面を望むことができる。(図 1-19①②)



図 1-19 泉ヶ丘公園の現状（濁池東側）

ウ. 水系（ため池、排水系統）

- 計画地は、海拔 83～113m 程度となっており約 30m の高低差がある。
- 計画地にはため池（濁池）を有する。
- 当該池は、灌漑機能を持ち、貯水量 58,504 m³、満水面積 16,080 m²であり、ため池南側のゲートより、農業用水管等にて途中泉北高速鉄道を渡り、堺市南区土佐屋台まで用水を送っている。
- ため池への導水は、計画地の南側に位置する茶山台二丁の概ね半分の区域を流域とする雨水について、公共下水道（雨水管）により行われている。
- また、ため池からの排水（用水を除く）は、ため池の北側の余水吐より公共下水道（雨水管）にて若松台方面へ流下し、豊田付近で石津川へと放流されている。

エ. 植生

- 計画地における植生は、植物群落のタイプで区分すると、森林植生ではアカメヤナギ群落、コナラーモチツツジ群落、先駆性木本群落、常緑・落葉広葉樹植栽林、落葉針葉樹植栽林の 5 タイプ。水生植物群落は、オオカナダモーガガブタ群落、草本植生は、ススキ・チガヤ・シバ群落とヨモギーカゼクサ群落の 2 タイプで形成されている。
- 現存植生図（図 1-20）では、コナラーモチツツジ群落が最も広い面積で分布しており、それに次いで、常緑・落葉広葉樹植栽林の面積が広い。常緑・落葉広葉樹植栽林は外周に近い場所に分布し、ニュータウン整備時やビッグバン整備時の造成後に植栽されたものと考えられる。それに次いで広い面積で分布しているのは濁池の中のオオカナダモが優先する水生植物群落である。アカメヤナギ群落は、濁池の南側に分布しており、落葉針葉樹植栽林は樹林地東側に分布している。



図 1-20 現存植生図

表 1-3 植物群落

		植物群落	群落識別種群
森林 植生	a	アカメヤナギ群落	アカメヤナギ、ヤナギタデ、ホソバノウナギツカミ
	b	コナラーモチツツジ群落	コナラ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、ネジキ、ソヨゴ、コウヤボウキ、エゴノキ、ヤマウルシ、ウラジロノキ、リョウブ、ナツハゼ、クヌギ、タカノツメ
	c	先駆性木本群落	カスミザクラ、アカマツ、アカメガシワ、ヌルデ、ススキ
	d	常緑・落葉広葉樹植栽林	クスノキ、ハリエンジュ、シャリンバイ、センダン
	e	落葉針葉樹植栽林	メタセコイア、ヒイラギナンテン
水生 植物 群落	f	オオカナダモ・ガガブタ群落	オオカナダモ、ガガブタ
草本 植物 群落	g	ススキ・チガヤ・シバ群落	チガヤ、シバ、ススキ、メリケンカルカヤ、ネコハギ、テリハノイバラ
	h	ヨモギ・カゼクサ群落	ヨモギ、コメツブツメクサ、エノコログサ、エノキグサ、カタバミ、オオイヌノフグリ、メヒシバ

オ. 景観

- 泉北ニュータウンの中でも標高が高い場所に位置し、かつて展望台が設置されていた。隣接するビッグバンの展望階からは、東は、金剛・葛城山、西は、大阪湾や淡路島方面、南は岩湧山・和泉山脈、北は大阪平野を眺望することができる。
- 計画地の景観は、ニュータウン造成当時に残された樹林地が手入れされず暗く鬱蒼としており、緑地内に入ることが困難な状況となっている。また、計画地内にひと際大きなため池があり、護岸整備されていない池の・西・東側は周辺の樹林地と相まって、里山的な景観を形成している。
- 中でも特徴的な樹形の景観木としては、壮齢木のヤマモモの大径木、樹高が際立って高いメタセコイア、濁池の水際で水中に根を下ろすアカメヤナギ、池の法面から水面に平行に幹が延びるアカマツがある。

② 社会的条件

1) 法適用

a. 都市計画法

- 当計画地は、都市計画公園に位置づけられている。都市計画法における区域区分と地域地区は市街化区域の商業地域である。また、防火地域の指定がある。

b. 文化財保護法

- 周知の埋蔵文化財包蔵地（陶邑窯跡群）内に位置する。

2) 交通・動線

- 本計画地へは、泉北高速鉄道泉ヶ丘駅南口より、陸橋で南へ約 300mの場所にある。
また、計画地は西・南面の市道に接道している。
- 濁池の西側は、泉ヶ丘駅方面から茶山台団地方面への動線として、幅員 2～3m 程度の動線が整備されている（図 1-21①～③）。
 - ✓ ほとんどの区間が未舗装であるが、北側の一部区間は舗装されている。
 - ✓ 動線のうち中間付近の標高が最も高く、北側及び南側の道路との接続部分には傾斜がある。特に、南側は階段が整備されている。
- 濁池の東側は、ビッグバンとの境界に園路が整備されている。
 - ✓ 公園の最も東側は、車が通行できる幅員が確保されている。（図 1-21⑤）
 - ✓ 一方、濁池方面に通じる道は一部階段であり、幅員も 1～2m 程度と狭い（図 1-21⑦）。途中、ビッグバンへのブリッジとの接続部がある。（図 1-21⑥）
 - ✓ ちょっとバンから濁池方面には獣道があり、途中階段も存在している。（図 1-21④）



図 1-21 泉ヶ丘公園の現状（動線）

③ 人文的条件

泉ヶ丘公園にある濁池西側を中心とし、当該エリアは陶邑（すえむら）窯跡群内にあり、須恵器の窯跡が保存されている。この陶邑窯跡群は世界遺産百舌鳥古墳群との関係が非常に深く、その分布を図 1-22 に示す。

窯跡の中には、全国各地で出土した須恵器の年代的な指標として考古学の研究上重要な役割を果たしている須恵器を焼成した窯跡が存在する。

隣接する大蓮公園には、原寸で複製された窯跡が保存されている。（図 1-23）



図 1-22 公園内の窯跡の分布



図 1-23 原寸で複製された窯跡（大蓮公園内）

4) 隣接施設

① 大蓮公園

大蓮公園は、昭和 40 年に都市計画決定され、昭和 57 年に開設面積 15.46ha の風致公園として開設した。堺市地域防災計画では、広域避難地に指定されている。

大蓮公園は、P-PFI 制度を導入し、地域住民を育て、幅広い世代が活用できる公園空間とするため、旧泉北すえむら資料館をリノベーションし、「Design Ohasu Days」により、公園内に私設図書館、キャンプサイト、バーベキュー、パンプトラック等の施設を設置した。

また、当該エリアでは、市民活動が活発に行われている。

② ビッグ・アイ

国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）は、「国連・障害者の十年（1983～1992 年）」を記念して、平成 13 年に厚生労働省が障がい者の「完全参加と平等」の実現を図るシンボリックな施設として設置された。

ビッグ・アイは、多目的ホール（1,500 人）、研修室、宿泊施設（35 室）、レストランを有する。

①基本理念

- 1) 障がい者が主役です
- 2) 芸術・文化活動や国際交流を通して障がい者の社会参加を促進します
- 3) 多くの人に親しまれる施設とします

②事業のカテゴリー

- 1) 国際交流・国際協力
- 2) 障がい者の芸術・文化の発信
- 3) 全ての障がい者の交流
- 4) 大規模災害時の後方支援

出所) ビッグ・アイ HP

③ 駅前商業施設

パンジョは、泉ヶ丘駅南東部にあるショッピングセンターで、泉北高島屋をキータナントとして、約 100 店の専門店がある。

また、物販、飲食店などが集まる専門店街が隣接している。

④ 泉ヶ丘市民センター

泉ヶ丘市民センターは、地域住民の教養、文化の向上を図り、社会福祉の増進に資するための総合施設であり、老人集会所、障害者集会所、図書館がある。

図書館は約 21 万 6000 点を蔵書し、芸術・スポーツ・娯楽関係の資料を多く収集している他、外国語資料や日本語学習に役立つ資料をそろえた多文化資料情報コーナーを設けている。設備としては、対面朗読室、ホール、集会室がある。

3. 関連する計画

1) 本計画の位置づけ

本基本計画は、上位計画と整合を図り、かつ、泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョンに位置づけられたエリアのコンセプトを踏まえ、ビッグバンや泉ヶ丘公園の役割や機能、整備の基本的な方針、計画条件、ゾーニング、動線の考え方を示すものである。

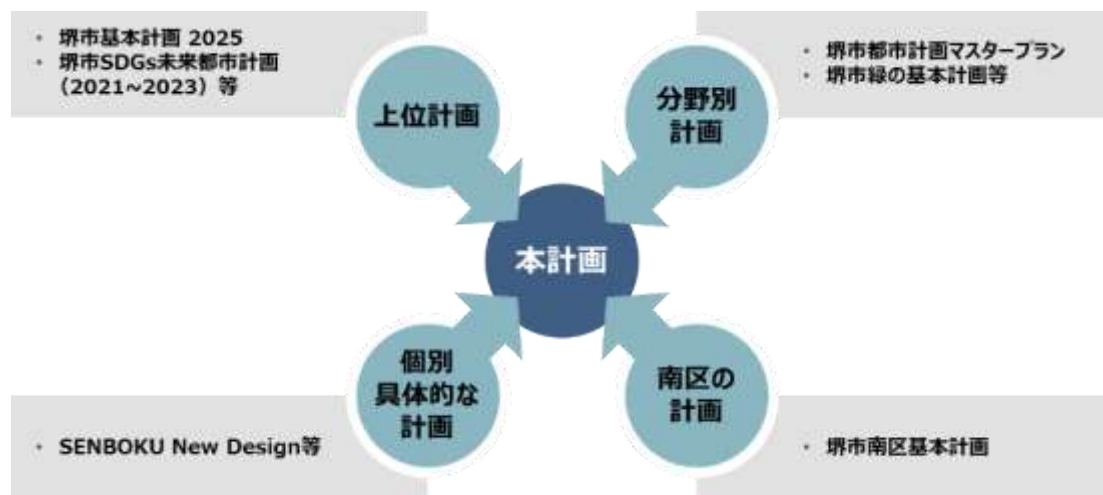


図 1-24 本計画の位置づけ

2) 関連する主な計画

堺市及び堺市南区の主な計画において、ビッグバン及び泉ヶ丘公園が含まれる泉ヶ丘エリアに関連する主要な記述は表 1-4 のとおり。泉ヶ丘エリアは、「子育て」が大きく意識され、緑豊かな特長を活かしながら魅力向上をめざしている。

表 1-4 関連する計画

上位計画	堺市基本計画 2025	【泉北ニュータウンの新たな価値の創造】 ①多様な世代が住み、働き、安心して暮らし続ける機能の充実 ②豊かな緑空間と多様な都市機能の調和 ③市民、企業、大学、団体など様々な主体との共創 ④持続可能なまちをめざした ICT や社会資本の活用
	堺市 SDGs 未来都市計画 (2021~2023)	【ゴール 11 住み続けられるまちづくりを】 主な取組: 民間活力を活用した魅力的な公園の運営 (11,7)
分野別計画	堺市都市計画マスタープラン	【泉北ニュータウンを牽引する拠点の形成】 泉ヶ丘駅周辺地区は、泉北ニュータウン全体及びその周辺地域にも商圏が及ぶ中核的タウンセンターとして、商業、居住、教育機能等に加え、次世代ヘルスケア産業など多様な都市機能の集積を図ることにより、広域的に人をひきつける魅力的な拠点の形成を図る

	堺市緑の基本計画	泉北ニュータウンでは、まちびらきから 50 年が経過し、開発当時に計画的に整備された駅前の大規模な公園の緑が、自然系緑地と一体的となり、市街地の貴重な緑として今に生きている。豊かな自然環境と都市的利便性が共存する魅力的な緑をさらに維持・保全・活用し、既存の緑を有効活用した再整備などを進めながら、泉北ニュータウンの緑を次代に継承する
分野別計画 (続き)	堺市パークマネジメント計画	これまでの行政主導による維持管理中心の公園管理運営から転換し、多様な主体との連携・協働により利用者の視点・経営的視点に立って都市公園の管理運営を戦略的に推進することにより、より質の高い公園サービスを提供し、都市公園の活性化を図ることを目的に多様な市民や団体、民間事業者等と取り組む
	堺スマートシティ戦略	・ 泉北ニュータウン地域を重点地域としてスマートシティの取組を先行して進め、全国のニュータウン再生のモデルとする ・ ICT を活用し、暮らしや働き方の利便性を高め、効率化・合理化・省力化することで生まれる”アソビ”(余白の時間、魅力的な都市空間)や、公園や緑道、ゆとりある住環境、活発な地域活動などの地域の特性を活かし、暮らしを彩る”ゆしみ”(芸術文化、スポーツ、交流、遊びなど)を創造する
	堺市子ども子育て総合プラン	【基本理念】 地域社会全体で子どもの健やかな育ちを支え、保護者とともに成長を実感できるまちの実現 【施策の柱】 子どもの健やかな成長を育む環境整備
	第 3 期未来をつくる堺教育プラン	【めざす子ども像】 それぞれの世界へはばたく“堺っ子” ・ 自分のよさを知り、人を認め、人とつながり協働する ・ 自らを律し、自ら学び続け、自らを表現する ・ ゆめの実現に向けて挑戦する ・ 堺を愛し、堺を誇りとする ・ 多様な価値観を認め、多様な文化を理解する
個別具体的な計画	SENBOKU New Design	【子育て・教育】 ビッグバンと泉ヶ丘公園の一体的活用による子どもが一日中ゆしめ、親も楽しく子育てができる拠点を整備する 【緑空間】 ビッグバンと泉ヶ丘公園の一体的活用による魅力あふれる空間を創出する 【市民交流】 来訪者の増加に向けた駅前の商業施設、文化施設、大学などの教育施設、ビッグバン、泉ヶ丘公園、原山公園プールなどの効果的な取組やプロモーションを実施する 【プロモーション】 ビッグバン、原山公園プール、ハーベストの丘、大蓮公園などの観光・文化施設について、来訪者が増えるよう、効果的なプロモーションを実施する
	泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョン	泉ヶ丘公園を含む周辺地域は、『子育て』をテーマとした「子育てと子育てのライプタウン泉ヶ丘」をめざす。ビッグバン・泉ヶ丘公園は子どもコア及びネクストコア 2 に該当する 【子どもコア】 ビッグバンやビッグバン裏の樹林地・濁池が一体となった子どもが一日中ゆしめる遊びの拠点・親も楽しく子育てができる拠点 【ネクストコア 2】 大型の公園や池に囲まれ、幹線道路にも面した立地を活かし、市民のアクティビティの場等導入する拠点を想定

	泉ヶ丘駅前 地域活性化 アクションプラン	子育て世帯をはじめ、若年世代の誘因につながるよう、自然豊かな森や池を活かし、親と子が遊び、学び、楽しめる、民間の柔軟な発想も取り入れた、魅力的な施設等の導入を図るなど、駅前地域活性化の起爆剤や今後の活性化を推進する基盤となることをめざす
南区の 計画	堺市南区基本計画	将来像として「自然とふれあい、人と人とのつながりを大切にする都市」を掲げ、南区の魅力である豊かな自然と最先端技術等を活用した多様な都市機能が融合し、21 世紀型の田園都市の形成をめざす

4. SDGs の視点について

本市は、2018 年 6 月に、国から SDGs 達成に向けて優れた取組を提案する「SDGs 未来都市」に選定された。2021 年度からは、「堺市 SDGs 未来都市計画」が新たにスタートし、本市の持続的発展だけでなく、国際社会の普遍的目標である SDGs に貢献する視点に立ち、新たな技術やサービスの積極的活用や企業、他自治体等との連携による課題解決を推進し、先進的な取組の創出をめざしている。

ビッグバン及び泉ヶ丘公園基本計画においても、「堺市 SDGs 未来都市計画」を踏まえ、SDGs に貢献する視点に立ち、「持続発展可能なまち」とするため、泉ヶ丘エリアでの子どもコアの実現に取り組むものである。



SDGs の 17 の目標(ゴール)

	貧困をなくそう	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ。
	飢餓をゼロに	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。
	すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。
	質の高い教育をみんなに	すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
	ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。
	安全な水とトイレを世界中に	すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。
	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。
	働きがいも経済成長も	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する。
	産業と技術革新の基盤をつくろう	強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る。
	人や国の不平等をなくそう	国内および国家間の格差を是正する。
	住み続けられるまちづくりを	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする。
	つくる責任 つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する。
	気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。
	海の豊かさを守ろう	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する。
	陸の豊かさも守ろう	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。
	平和と公正をすべての人に	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する。
	パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

第2章 計画対象地の特徴

1. 泉北ニュータウンの特徴

1) 地域の沿革

① 陶邑窯跡群

本計画地を含む泉北ニュータウンを中心とした泉北丘陵には、陶邑窯跡群（すえむらかまあとぐん）が位置する。5世紀初め頃から陶器生産のルーツともいえる須恵器の生産が始まり、『日本書紀』においても「茅渟県陶邑（ちぬのあがたすえむら）」と記されている。朝鮮半島の技術を導入したこの焼き物生産は、当地において平安時代までの約500年続けられ、800基以上の窯が築かれた。日本国内において、これほど長期間にわたって生産が続けられ、かつ大規模な須恵器の生産地はほかに例をみない。（出所：堺市歴史的風致維持向上計画）



図 2-1 陶邑窯跡群の位置

出所）堺市歴史的風致維持向上計画

② 高倉寺

本計画地の東に約600mの場所にある高倉寺について、高倉寺は、寺伝によれば、文武天皇の雲慶2年行基が開基であると伝えられている。高倉天皇の庇護により隆盛となり「大修恵山高倉寺」と号したが、応仁の乱や織田信長の焼き討ちなどで廃絶したのち、江戸時代初期慶長年間に岸和田城主であった小出氏の援助により再興したと伝えられている。高倉寺が「修恵寺」とよばれていたことは同寺所蔵の什具の饒（にょう）に「久安五年修恵寺」の銘があることなどから確実で、「行基年譜」記載の行基設立の四十九院の1つの「大修恵院」がこの高倉寺の前身であった蓋然性が高いと思われる。

（出所：陶邑窯跡群発掘調査概要 1995.9 大阪府教育委員会）

③ 御茶屋山

御茶屋山は泉北ニュータウンの「茶山台」の基になった地名である。「大阪府全史」によれば、この地は高倉寺の北西にあり、一に竜宮塚といい、大字深阪の飛び地であって、山には彌須亭の跡があつて眺望がよく、林羅山が「陶器十景」の漢詩を詠んだところであるという。

江戸時代には集落の近くにあつてしかも眺望の良い観光地的な場所でもあったことがわかる。「和泉名所図会」には高倉寺周辺の景色が描かれている。

(出所：陶邑窯跡群発掘調査概要 1995.9 大阪府教育委員会)



図 2-2 和泉名所図会に描かれた御茶屋山

出所) 国立図書館「和泉名所図会」

④ 泉北ニュータウン開発

明治 18 年に作成された測量地図から、現在の泉ヶ丘駅周辺地は、丘陵部の谷筋にため池や水田が分布する里山であったことがわかる。

泉北ニュータウン造成前の昭和 36 年の航空写真からも、明治期同様に里山の風景が確認できる。

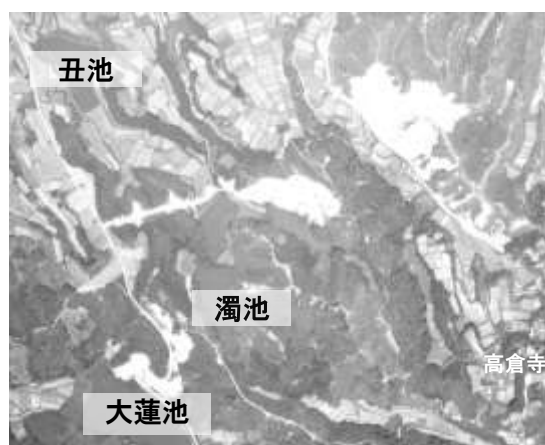
泉北ニュータウンのまちびらき後の昭和 50 年の航空写真をみると、現在のビッグバンやビッグ・アイが建設される前の泉ヶ丘駅前の様子が確認できる。

現在の様子を示す令和元年 1 月の航空写真からは、ビッグバン、ビッグ・アイの施設が立地し、ニュータウン造成前から残る樹林地や回復緑地として植栽された樹木も大きくなっていることが伺える。

また、既存の樹林地は隣接する大蓮公園や団地の緑とともに、駅前に一体的な緑の空間を形成している。



出所：明治 18 年測量 大日本帝国陸地測量部



出所：国土地理院 昭和 36 年航空写真



出所：国土地理院 昭和 50 年航空写真



出所：令和元年 1 月航空写真（堺市）

図 2-3 泉北ニュータウンの変遷

2) 人口構成

① 泉北ニュータウンの人口

泉北ニュータウンの人口推移を図 2-4 に示す。1992 年の 164,587 人をピークにして減少が続いており、2020 年 12 月末時点の人口は 118,181 人である。また高齢化も進展しており、老年人口の増加、生産年齢人口の減少が顕著になっている。



図 2-4 年齢階層別人口比率の推移

出所) SENBOKU New Design

転出転入人口の推移を図 2-5 に示す。10 代後半から 30 代の地区外転出が多く、若年世代の転出超過となっている。

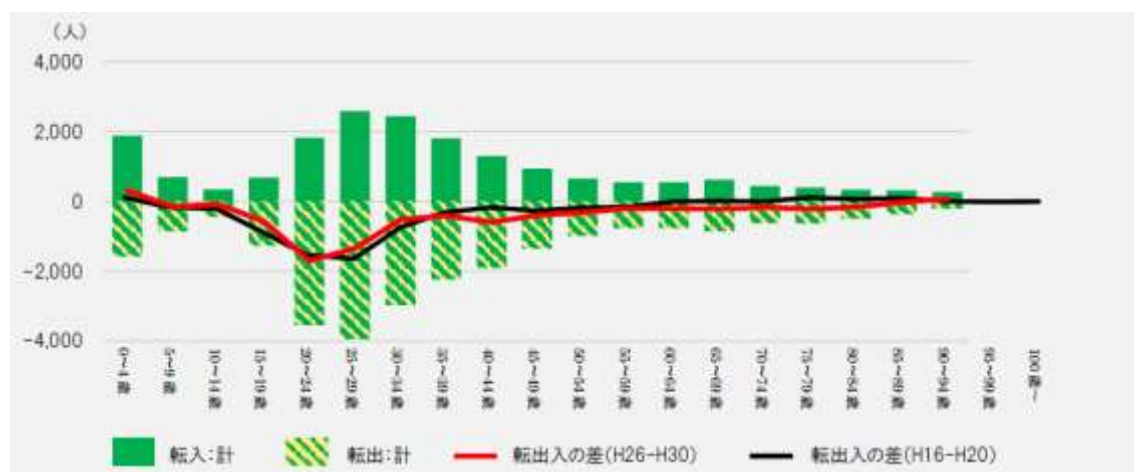


図 2-5 泉北ニュータウンの転出入の状況（平成 26—平成 30 年度計）

出所) SENBOKU New Design

② 誘致圏域の人口

地区公園の誘致圏域（半径 1km）の人口構成（令和 2 年 9 月 1 日現在）を、町丁単位で分析すると、人口約 3 万人、世帯数は約 1 万 5 千世帯である。

同圏域内の人口密度は約 9,500 人/㎥となり、南区の人口密度 3,431 人/㎥、堺市全域の人口密度 5,511 人/㎥よりも高く、泉ヶ丘駅前に立地し、とりわけ集合住宅が多いことが要因と考える。

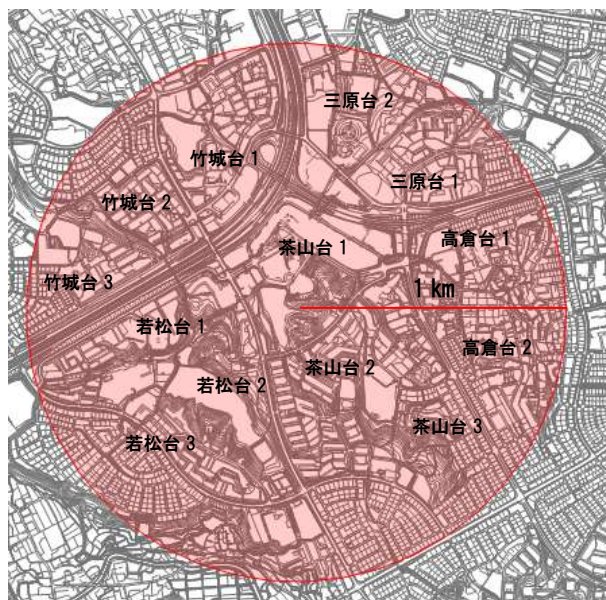


図 2-6 誘致圏域図

表 2-1 誘致圏域における人口・世帯数

町丁名	世帯数	人口		
		総数	男	女
高倉台1丁	789	1,447	613	834
高倉台2丁	1,572	3,326	1,588	1,738
竹城台1丁	1,314	2,100	956	1,144
竹城台2丁	1,106	1,925	873	1,052
竹城台3丁	605	1,141	473	668
茶山台1丁	140	273	115	158
茶山台2丁	2,511	4,460	2,093	2,367
茶山台3丁	718	1,426	691	735
三原台1丁	1,484	2,711	1,137	1,574
三原台2丁	2,138	5,599	2,670	2,929
若松台1丁	1,402	2,666	1,162	1,504
若松台2丁	691	1,337	566	771
若松台3丁	445	1,024	477	547
計	14,915	29,435	13,414	16,021

令和3年9月末現在

人口構成比でみると、子どもの人口（0－14 歳）が 9.6％、生産年齢人口（15－64 歳）が 55.8％、高齢者人口（65 歳以上）が 34.6％、平均年齢は 50.9 歳である。

全市や南区域と対比すると、子どもの人口割合は、南区 11.2％、全市 12.4％のいずれよりも低い値で、生産年齢人口の割合は、南区の 54.2％よりも高いが、全市の 59.3％よりも低い値となっている。

また、高齢者人口は、南区 34.5％と概ね同値であり、全市 28.3％よりも高い値となっている。

年齢	誘致圏域内			全市計			南区域		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0-14	2,813	1,459	1,354	102,806	52,526	50,280	15,652	8,059	7,593
15-64	16,431	7,810	8,621	496,671	244,572	246,099	75,541	36,332	39,209
65以上	10,191	4,145	6,046	234,314	99,643	134,671	48,070	20,469	27,601
構成比（％）									
0-14	9.6	10.9	8.5	12.4	13.2	11.7	11.2	12.4	10.2
15-64	55.8	58.2	53.8	59.3	61.6	57.1	54.2	56.0	52.7
65以上	34.6	30.9	37.7	28.3	25.1	31.2	34.5	31.6	37.1
平均年齢	50.9	48.8	52.6	46.8	45.0	48.3	48.3	48.0	51.3

令和3年9月末現在

表 2-2 人口構成比

3) 市民アンケート

堺市では2020年8月に、未来の泉北ニュータウンの取組に向けたアンケート調査を行った。Web アンケート形式で実施し、回答者の総数は319人である。

泉北ニュータウン在住者（173人）への「泉北ニュータウンに今後も暮らしたいと思うか」という問いに対しては、8割を超える回答者が「暮らしたいと思う」と回答しており、多くの地域住民にとって住みよい街であると言える。また、泉北ニュータウン外在住者への「泉北ニュータウンは住み替え先の候補となるか」という問いに対しては、「候補として考えたことがある」が半数近くに上るが、今後さらに地域外に対するブランド力向上が求められる。

泉北ニュータウンで魅力を感じるもの（図 2-7）については、「公園・緑道など緑が豊か」、「静かで落ち着いた居住環境」という回答が多く、そのほかにも、子育てしやすい環境にも魅力を感じている。ビッグバン及び泉ヶ丘公園の一体活用においては、駅前の自然豊かな緑を活かし、子育て環境を整備していく。

〔問 27〕 魅力を感じるもの（複数回答・％）

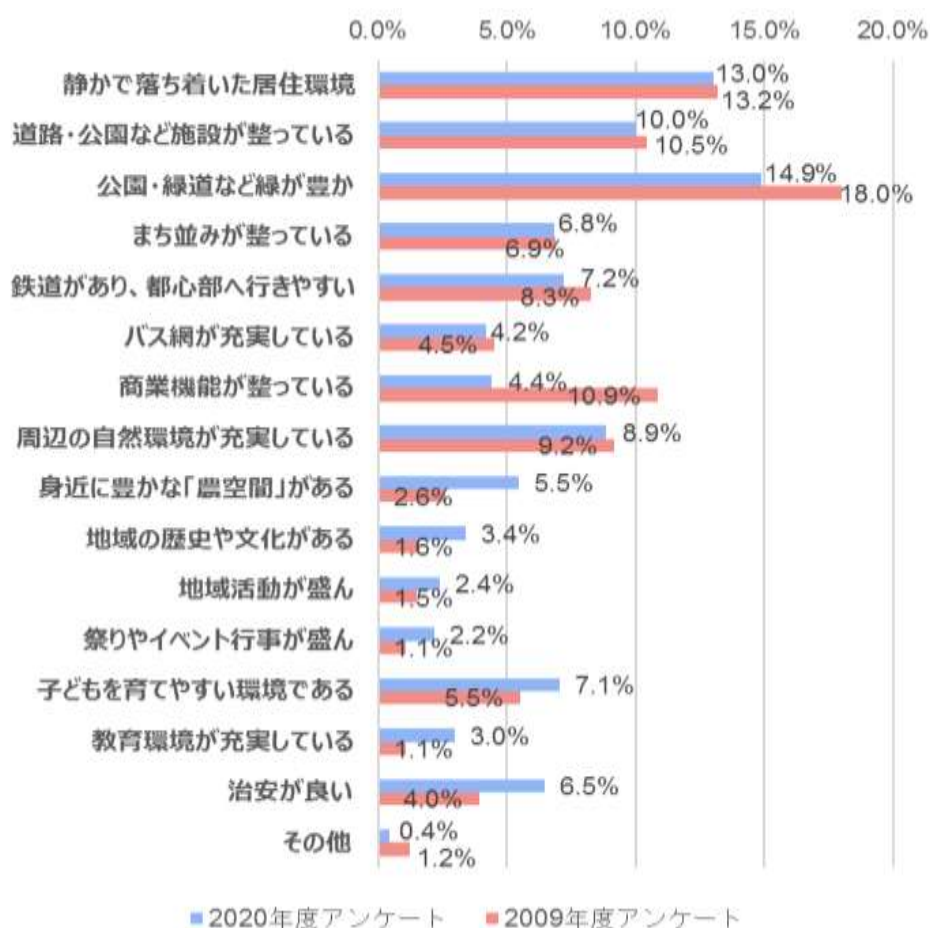


図 2-7 市民アンケート（まちの魅力）

出所）第1回 堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会

望ましいまち（図 2-8）については、医療施設、商業施設、教育施設、保育環境の充実を求める回答が多かった。泉ヶ丘エリアは、特に商業施設が集積しているほか、今後、近畿大学医学部の整備も予定されていることから、こうした施設の利便性をより向上させる必要がある。さらに、子育てしやすい環境を向上させていく必要がある。

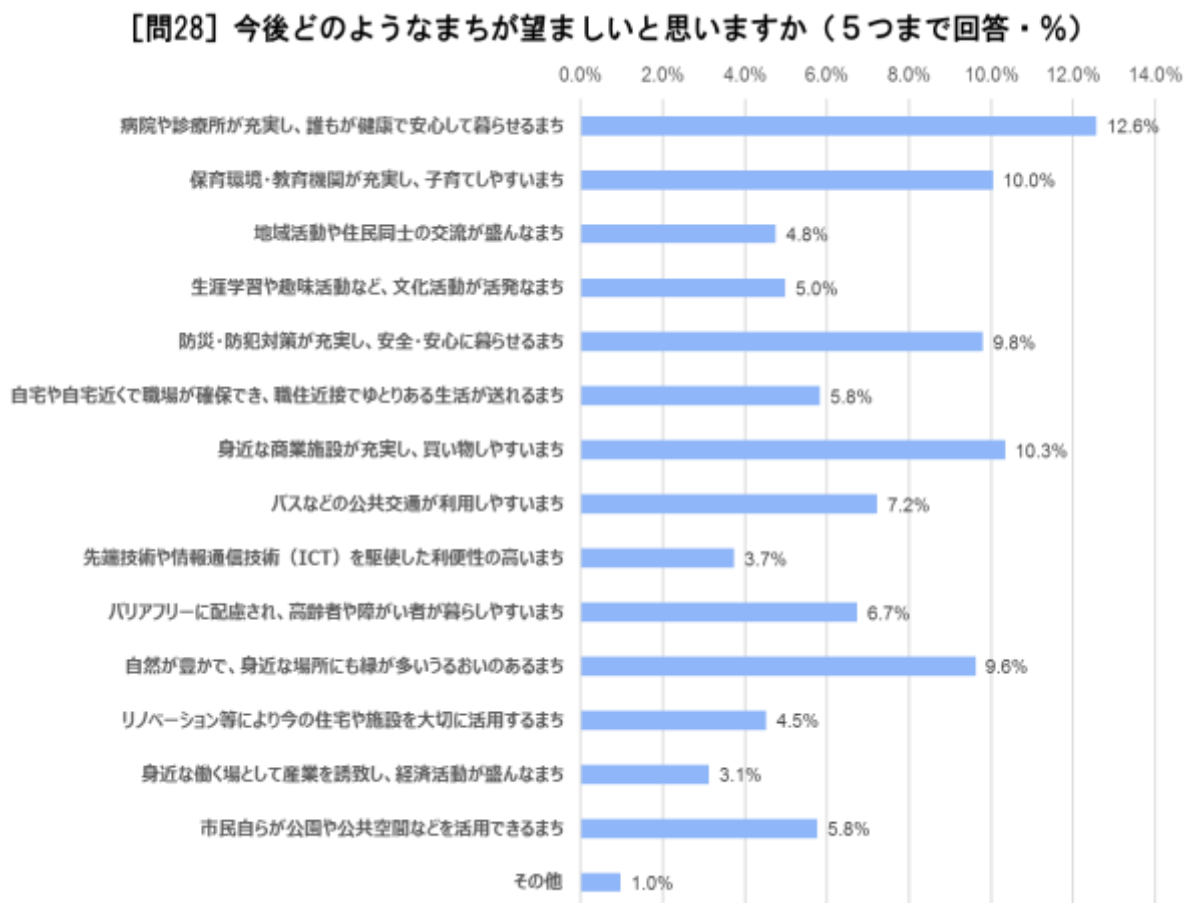


図 2-8 市民アンケート（望ましいまち）

出所）第1回 堺市泉北ニュータウン再生指針の改訂に関する懇話会

2. 泉ヶ丘エリアの特徴

泉ヶ丘エリアには、ビッグバンの周辺に多くの商業施設や公園が立地しているため、周辺施設管理者へのヒアリング結果を表 2-3 に整理した。エリア全体で見ると客層が多様であることや、市民ボランティアが積極的に活動していること、エリアマネジメント組織が設立されていることが特長である。この特長を活かし、ボランティア、ビジネス両面において市民の力を最大限活かした地域独自の魅力を持つ都市の活性化をめざすことが求められる。一方、近畿大学医学部・近畿大学病院の移転などにより、ステークホルダーの変化も見込まれるため、継続的なエリアマネジメント体制の構築をめざす必要がある。

また、施設間の相互利用が少なく、エリア内の回遊行動創出が課題である。新たなエリアマネジメント体制の下、回遊促進をめざしたイベントの拡充や、駐車場サービスの連携等、施設間の回遊性を生む連携方策が求められている。また、市民参加については、マルシェ等、気軽に参加できるイベントは多く、引き続き、市民参加を促進する取組が必要である。

表 2-3 泉ヶ丘エリアに関するヒアリング結果

	特徴
客層	・ 施設ごとに客層が分かれ、様々な客層が訪れるが、相互利用が少ない ・ 大蓮公園は時間帯ごとに幅広い年代の利用がある ・ パンジョの来店は自動車利用が多く、堺市だけでなく市外からも来客がある
施設間連携	・ 泉北ニュータウン再生府市等連携協議会、泉ヶ丘ライブタウン会議などによって組織横断的にエリアマネジメントに取り組んでいる ・ 定期的にエリア内での回遊促進をめざすイベントを開催している ・ 施設間はペDESTリアンデッキで結ばれているものの、十分活用されていない
市民連携	・ 大蓮公園にてマルシェが開催されるなど、多くの市民が積極的に活動 ・ イベントでは、地元学生が駅前広場でステージに出演

3. ビッグバン及び泉ヶ丘公園の特徴

1) ビッグバン

ビッグバンの特徴を表 2-4 に示す。新型コロナウイルス感染症発生前は年間約 25 万人が来館しており、大きな集客力を持つことが強みである。来館者の居住地域も、大阪府内に留まらず、周辺府県からの来訪が見られる（図 2-9）。客層は子育て世代の来館が多く、平日は団体（遠足）利用が多い。また、ビッグバンの展示ストーリーに基づき、宇宙をテーマに様々なコンテンツが用意されている。

一方で、来館する子どもの年齢は未就学児から小学生が多く、中学生の来館はほとんどない（図 2-10）。この要因として、コンテンツは遊具等のハード系が多く変化がないことや、小学校高学年以上が楽しめるソフト系のコンテンツがないことが挙げられる。子どもの成長の過程において長い期間楽しめるよう、来館者の年齢や社会のニーズに合わせて多様なプログラムを用意するなど、ソフト系のコンテンツが求められる。

上記の取組でリピート率を高め、地元で愛され地域全体の魅力を高める施設にすることや、施設間連携を促進し、子どもが楽しめるコンテンツ・フィールドを他施設にまで拡大していく必要がある。

表 2-4 ビッグバンの特徴

	特徴
来館者	・ 新型コロナウイルス感染症拡大による影響以前は、年間約 25 万人が来館 ・ 子どもの付き添いで大人の来館も多い ・ 平日（特に雨天日）は団体利用が多い ・ 遠方からの集客もある ・ 地元でもリピート率が低い ・ ビッグバンは未就学児～小学校低学年に利用がとどまっている ・ 子どもが遊んでいる間、保護者も一緒に楽しめる環境が不足している
コンテンツ・設備	・ 宇宙をテーマに、一貫したストーリーで設計されている ・ 遊具のバリエーションが豊富であり、特にマチカネワニや遊具の塔が人気 ・ すべてのコンテンツが屋内にあり、雨天時も楽しめる ・ コンテンツが固定化している ・ 交流広場や 4 階のブリッジなど、十分に活用できていないスペースが存在する ・ 設備の老朽化が進んでいる
他施設との連携	・ パンジョにビッグバンのチラシを設置 ・ 周辺施設との連携は乏しい ・ 特に団体利用者は周辺施設への回遊がない

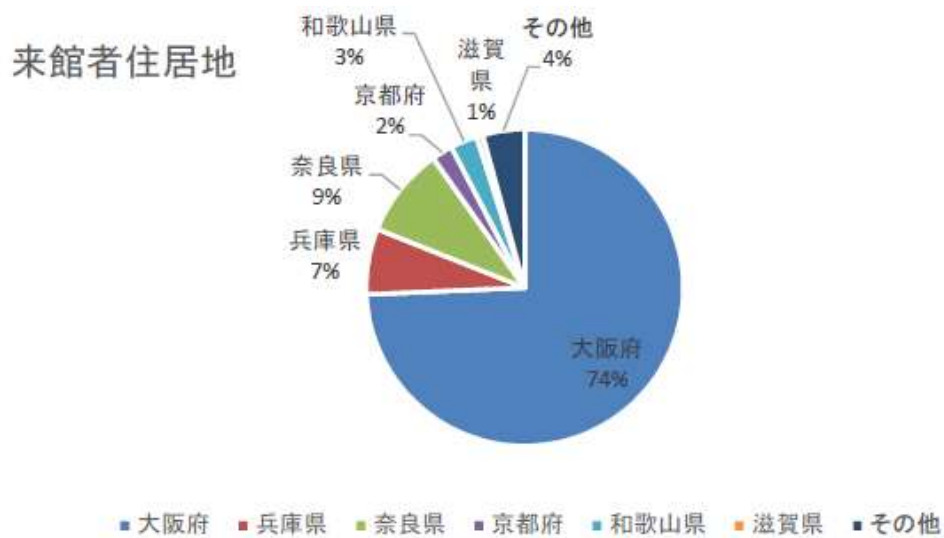


図 2-9 平成 30 年度 来館者アンケート（来館者の居住地）

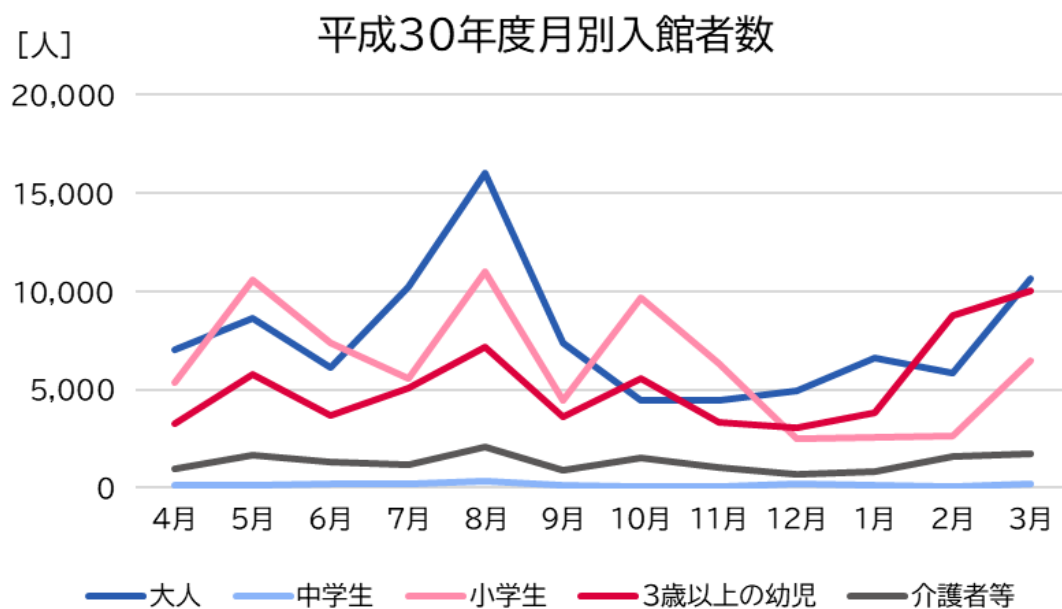


図 2-10 ビッグバンの来館者数

2) 泉ヶ丘公園

泉ヶ丘公園の特徴を表 2-5 に示す。地域資源としては、駅前ながら貴重な里山の緑が残されていることが特長であり、豊かな地形や水辺空間が広がる。また、公園内の園路はすでに一定程度利用されている。

一方で、里山の緑や濁池を活用した遊びや、ビッグバンと連携したプログラムの展開などの、新たな魅力創出が求められる。

表 2-5 泉ヶ丘公園の特徴

	特徴
利用状況	・ 濁池西側の園路は茶山台団地から駅方面に向かう人に利用されている ・ ちょっとバンは地元の小学生に人気 ・ 全体的に園路の利用者は少なく、特に濁池東側の園路は高低差があり、ほとんど利用されていない ・ 公園は里山であり、現在あまり活用されていない ・ ちょっとバンを訪れる子どもの保護者の居場所が不足
地域資源	・ 起伏があり、地形の種類が豊か ・ 濁池があり、水辺空間が広がる ・ ちょっとバンでは、森林を活用した体験プログラムを提供 ・ 公園区域内に世界遺産百舌鳥古市古墳群とつながりが深い多くの窯跡が存在 ・ 豊かな緑・水辺環境がほとんど活用されていない ・ 窯跡の存在がほとんど周知されていない
他施設との連携	・ 公園資源を活用した周辺施設との連携はほとんど行われていない

第3章 基本的な考え方

1. 基本理念

1) ビッグバン及び泉ヶ丘公園の将来像

子どもが未来に向かい創造的に学び遊ぶ子育ての拠点に

ビッグバン及び泉ヶ丘公園のエリアは、以前から子どもが集まる場として機能してきた。ビッグバンには市内外から子どもが訪れ、また、泉ヶ丘公園内のちょっとバンには地域の子どもたちが集まっていた。泉ヶ丘駅前地域活性化ビジョンでは、ビッグバン及び泉ヶ丘公園のエリアが「子どもコア」とされており、よりいっそう子どもたちが愉しめる空間となることをめざす。また、ただ愉しむだけでなく、昨今の教育で求められている協働性や社会性も身に付けられる場とし、保護者が子どもを育てる「子育て」と子どもたち自らが活動する「子育て」の両面から、保護者が安心できること、子どもが能動的に活動できることをめざす。

2) ビッグバン及び泉ヶ丘公園のコンセプト

「宇宙」と「地球環境」をテーマに創造力をはじめ
社会を生き抜く力を育み、そのエネルギーを周辺にも波及させる

子どもたちが協働する

多彩なプログラムにより、子どもたちが
主体的に協働する場を提供

子育てを実感できる

保護者が子育てを楽しむことができ、
安心して子育てを実感できる場を創出

市民とともに育む

地域の資源を活かした事業・活動を
市民とともに育む

エリア全体で新たな魅力を創出

ビッグバンと公園、周辺施設が連携し
回遊を創出

ビッグバンの「宇宙」、泉ヶ丘公園の「地球環境」をテーマに4つの視点を踏まえた取組を進め、子ども、保護者、市民等が、子どもの健やかな育ちを支え、地域全体が一体でエリアの価値創出に取り組むことで、子どもたちに社会生き抜く力を身につけさせ、子どもたちのエネルギーを泉ヶ丘エリア全体に波及させる。

① 子どもたちが協働する

児童厚生施設であるビッグバン及びその周辺の泉ヶ丘公園において、子育ては非常に重要な機能である。他者を尊重し、協働する「社会性」、新たな価値を創り出す「創造性」、自ら考え、自ら行動する「主体性」を育むことにより、子どもたちは画一的な能力ではなく個々人それぞれの能力を身につけ、子どもたちそれぞれが世界へはばたいていくことをめざす。

② 子育てを実感できる

子育て世代が多く来館しているというビッグバンの特長をさらに伸ばすため、保護者自身も子どもを見守りながら愉しめる施設とする。子も保護者も愉しめる施設の存在は子育てのしやすさに直結し、子育て世代に選ばれる泉ヶ丘エリア、泉北ニュータウンをめざす。

③ 市民とともに育む

地域社会全体で子どもの健やかな育ちを支えることはもちろんのこと、泉ヶ丘公園に残された貴重な里山の緑や、それを使った地域の活動を市民参加型で育んでいく。市民が地域を育むことは泉ヶ丘の歴史を知り、地域への愛着を高め、シビックプライドの醸成へとつながる。それぞれの市民が何世代にもわたって住み続けたいと思える泉ヶ丘エリアをめざす。

④ エリア全体で新たな魅力を創出

交通のアクセスがよく、かつ様々な商業施設や公園が集積している泉ヶ丘エリアの特長を活かし、エリアマネジメント組織等を活用した事業者間の連携により、来訪者の回遊を高める。来訪者が泉ヶ丘の魅力を再発見することにより、来訪者の増加、さらなる魅力の創出をめざす。

3) ゾーニング計画

ゾーニング計画は図 3-1 に示すとおり、泉ヶ丘駅方向からビッグバンを訪れ、後背地、泉ヶ丘公園を一巡できる動線を整備し、ビッグバン及び泉ヶ丘公園、それぞれが連携し活動できる環境を整えることで、子どもたちに未来への希望を抱くことができる場としていく。

ビッグバンでは、「宇宙」をテーマに、本物の宇宙技術の紹介や宇宙関連団体と連携した体験プログラムやワークショップ等を行い、子どもたちの豊かな発想力や広い視点等を育み、未来を創造する力を身につけることができる場とする。また、これらのワークショップ等の実施にあたっては、館内だけではなく、館外の交流広場や展望広場、泉ヶ丘公園を一体的に活用しながら実施していく。

泉ヶ丘公園では、「地球環境」テーマに、豊かな自然環境・地域資源を活かし、子どもたちが自ら遊びを考え実践することにより、社会を生き抜く力を育む。また、窯跡などの歴史的資源を活かし、フィールドワークや遊びの機会を通じて地域の歴史文化を学ぶ場とする。さらに、公園内の園路をシームレスに周辺エリアにつなぐことにより、ビッグバン及び泉ヶ丘公園に加え、周辺エリアへの周遊性を高める。

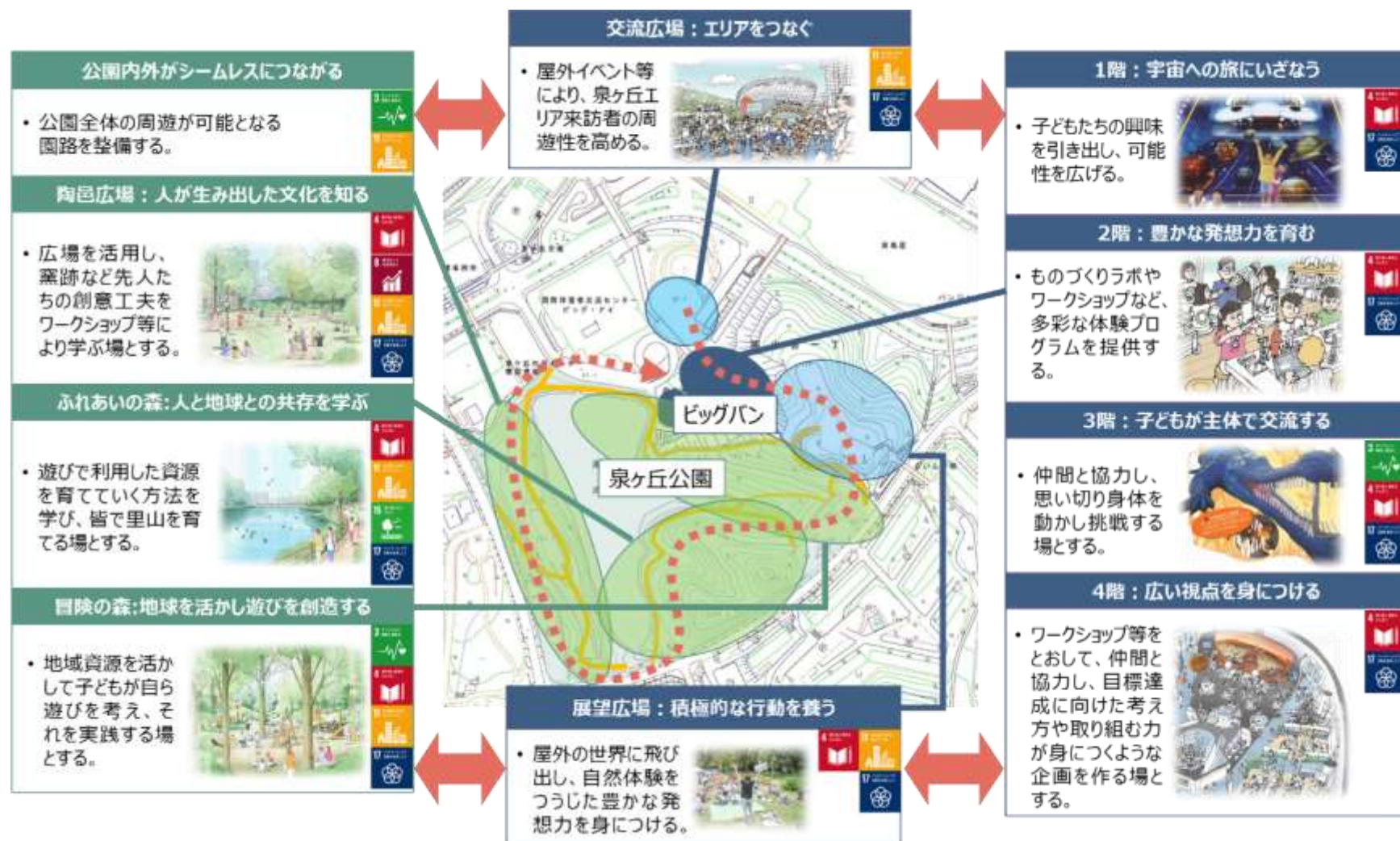


図 3-1 ビッグバン及び泉ヶ丘公園 ゾーニング計画

2. 想定する利用者層と利用イメージ

「子どもが未来に向かい創造的に学び遊ぶ子育ての拠点」として、子どもの成長に寄り添う場である必要がある。ビッグバンは小学校低学年以下の来館が主であったが、ビッグバン及び泉ヶ丘公園を屋内外で連携した施設とすることにより、利用者層を小学校高学年まで広げる。1つの施設で高学年と低学年がともに活動することにより、低学年の子どもは「先輩」を見て学び、さらなる成長へとつなげることができる。そして、自分が育った地域への愛着を高めることをめざす。

利用者の居住エリアについては、市民が日常的に訪れる場とするだけでなく、市外の方たちも訪れやすい場とし、市内外から人が集まり新たな魅力があふれる都市をめざす。

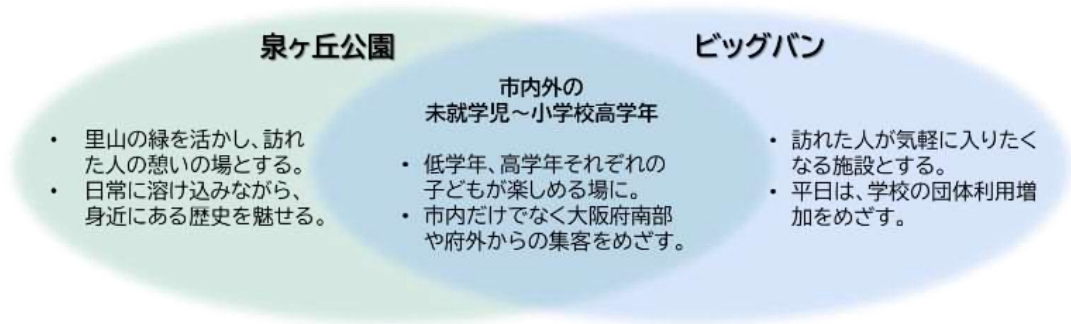


図 3-2 想定する利用者層と利用イメージ

3. エリアの回遊性向上

第1章2節に記載のとおり、ビッグバン及び泉ヶ丘公園の周辺には、商業施設や都市公園等、様々な施設が位置している。泉ヶ丘エリアは様々な客層が訪れるという特徴を活かし、様々な客層が相互に施設間を行き来するエリアをめざす。ビッグバンに訪れた家族連れが泉ヶ丘駅前の商業施設で食事や買い物をする、泉ヶ丘公園に訪れた子どもたちが図書館で学習する等、地域内の行き来を活発化させることにより、「エリア全体で新たな魅力を創出」につなげていく。

ビッグバンや泉ヶ丘公園における活動についても、周辺施設や大学等とも連携しながら新たな取組を展開し、泉ヶ丘駅前エリア全体の活性化に寄与することをめざす。具体的な連携イメージは図3-3に示すとおり、ビッグバンにより入りやすい環境を整え、駅前商業施設や駅周辺の広場・公園と連携したプログラム等の取組を展開する。

図 3-3 周辺施設との連携イメージ

一般来訪者を増やすため 1階を無料開放  出所) 日比谷花壇 HP	周辺施設・機関との連携した 出張イベント、周遊イベント、 エリアマネジメント活動  出所) 泉ヶ丘ひろば専門店街 HP	屋内・屋外連携のイベント・ プログラム  出所) 國學院大學 HP
---	---	---

第4章 ビッグバンのリニューアル運営方針

1. 基本方針

ビッグバンは、外とシームレスにつなげることができる屋内空間を持ち、子ども向け施設としてのブランドを既に築いている。これらの基礎的条件を踏まえ、ビッグバン及び泉ヶ丘公園のコンセプト実現に向けた、ビッグバンの基本方針を図 4-1 に示す。子どもからも保護者からも選ばれる施設をめざし、同じコンテンツを将来も提供し続けるのではなく、常に時代にあった新たなコンテンツを提供し、利用者の増加を図り収益の確保にも取り組んでいく。

宇宙を知り未来を創造する力を身につける	
1. 子どもが大好きな施設に	“体験×挑戦×協働”で、訪れた子みんなが楽しめるビッグバン 新たな体験、仲間との協力、創意工夫等—あらゆる体験を通じて子どもたちがそれぞれの楽しさを発見し、成長する場
2. 保護者からも選ばれる施設に	子育てを楽しみ、子育てを実感できるビッグバン 子どもと一緒に楽しみ、憩え、子どもの成長を実感できる場
3. 将来にわたり魅力を発揮し続ける施設に	地域みんながつながり進化し続けるビッグバン 市民、団体、大学などと連携し、魅力あるコンテンツを提供することで、常に地域や利用者に親しまれる場

図 4-1 ビッグバンの基本方針

2. 利活用のイメージ

利活用のイメージを表 4-1 に示す。子どもの成長や子育てのほか、泉ヶ丘駅前周辺の魅力向上や、新たな魅力の創出・交流促進を図る。

表 4-1 ビッグバンの利活用に係る機能

子育て	①子どもたちの興味関心を引き出し、好奇心を育む機能 ②子どもたちが体を動かせる機能 ③子どもたちが遊びを通じて創意工夫する場としての機能 ④子どもたちがほかの人との協働を通じて価値を生み出す場としての機能
子育て	保護者が子育てを楽しみ、安心して子育てを実感できる場としての機能
地域の交流促進・魅力向上	①多様な人を呼び込み交流を促進する機能 ②地域の市民、団体、大学などと連携した取組を進め、地域の新たな魅力を創出する機能
地域の特徴発信	宇宙や環境、歴史文化などの地域に関する魅力・特長を発信する場としての機能

3. フロア計画

図 3-1 のゾーニング計画を踏まえ、ソフト事業の強化を軸とした既存の遊具を活用や、各フロアのテーマに沿ったコンテンツの導入など、ビッグバンが持つポテンシャルを最大限活用する改修とする。

表 4-2 ビッグバンの整備運営方針

テーマ「宇宙」：宇宙を知り未来を創造する力を身につける	
交流広場	■ エリアをつなぐ ・ 駅前周辺施設との連携によりビッグバンエリアの周遊性を強化 ・ 交流の場やイベントの企画運営により駅前の回遊性を促進
1階	■ 宇宙への旅にいざなう ・ 無料コーナーとし宇宙に関連した物販を拡充する ・ いつでも子どもや保護者が気軽に活用できるスペースの提案を民間事業者に求める
2階	■ 豊かな発想力を育む ・ 幼児が利用できるエリアや「ものづくりラボ」として、小学校高学年までが利用できる豊かな発想力をはぐむ体験の場を提供 ・ 宇宙技術体験をととして、地球環境の大切さを知るプログラムを提供
3階	■ 子ども主体で交流する ・ 幼児から小学校中学年までの利用を想定 ・ 子どもたちの体力と積極的な行動力を養う場を提供 ・ 現在も人気の大型滑り台などを活用するとともに幼児も利用できる遊具等の新たなサービスを提供
4階	■ 広い視点を身につける ・ ワークショップ等の拡充に向けた設備整備、既存施設を活用した収益確保 ・ 宇宙をテーマにした展示コーナーの設置、シアターのリニューアル、屋外との接続デッキの改修等によりビッグバンと泉ヶ丘公園を一体的に活用し、宇宙・地球を学ぶ環境ワークショップ等のプログラムを提供
展望広場	■ 積極的な行動力を養う ・ ビッグバン（屋内）から泉ヶ丘公園（屋外）へといざなう ・ 屋内ではできない実験や体験プログラムを提供

1) 1階（宇宙への旅にいざなう）

無料ゾーンを設けて、館内外をつなぎシームレスに活用する。これにより、リニューアル後のビッグバンを印象づけて、市民の交流を促す。

また、飲食の提供や宇宙関連商品等の販売機能を設け、気軽に市民が利用できる新たな魅力を創出する。

入館口の前の交流広場では、駅前周辺施設と連携したイベントを開催する等、駅前周辺の回遊性を高める新たな魅力を創出していく。



図 4-2 ビッグバンリニューアル後のフロア計画（1 階）

2) 2 階（豊かな想像力を育む）

小学校低学年までの比較的年齢の低い子どもたちが利用できるエリアに加え、小学校高学年までの子どもたちが、工作等をとおして豊かな発想力をはぐくむ学び体験や、宇宙技術体験をとおして地球環境の大切さを知るプログラムを提供する。具体的には、ワークショップ等が行える空間（ものづくりラボ）を拡充する。

小さな子どもを安心して楽しめる、あかちゃん広場を設ける。保存状態の良いあかちゃん広場やスペースキッチンが既存設備を活かす。

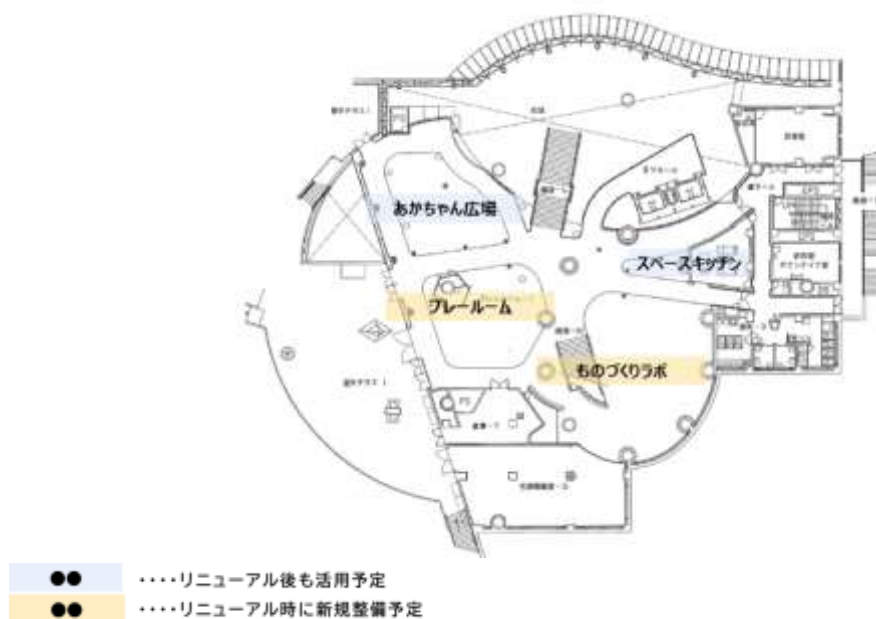


図 4-3 ビッグバンリニューアル後のフロア計画（2 階）

3) 3階（子どもが主体で交流する）

幼児から小学校中学年までの子どもたちを主な対象とする。思い切り体を動かし体力と積極的な行動力を養い、子どもたちの交流を促す場とする。ワニの遊具を始めとした人気の高いエリアであり、既存設備を活かした改修を行う。



図 4-4 ビッグバンリニューアル後のフロア計画（3階）

4) 4階及び遊具の塔（広い視点を身につける）

多目的に使えるイベントスペースや活動スペースを設けることで、期間限定の展示やイベントも実施しやすくし、何回も訪れたくなるような仕掛けを行う。

宇宙をテーマにした本物志向の展示コーナーやシアターのリニューアルを実施することで、宇宙体験と宇宙への興味を喚起する。

このほか、人気の遊具の塔は保存状態も良いことから大きな改修は行わずに引き続き活用し、新たな物販スペースを設けるなど収益確保の取組を行う。また、泉ヶ丘公園に続く接続デッキを活用し、ビッグバンと泉ヶ丘公園を一体的に活用した宇宙・地球を学ぶ環境ワークショップなど魅力的なプログラムを提供する。



図 4-5 ビッグバンリニューアル後のフロア計画（4階）

4. 事業イメージ

1) 交流広場の活性化（エリアをつなぐ）

幅広い年齢層が楽しめるイベントを展開。また、集まった人々を、ビッグバンや周辺施設へつなぐ流れを創出する。



図 4-6 活性化した交流広場のイメージ

2) 館内活動の館外への展開

2階のものづくりラボで製作したものを活かした館外プログラムを展開する。また、4階で実施するワークショップについても、泉ヶ丘公園へとつながる接続デッキを活用し、館外への展開を図る。これまで十分に活用されていなかった交流広場やため池をさらに活用する等、館内の活動を館外へ発展させ新たな魅力を創出していく。



図 4-7 屋内の活動を屋外へ展開させたプログラムイメージ

3) 宇宙や SDGs をテーマにした新たなコンテンツ

イベントスペースや活動スペースなど、フレキシブルに活用できる空間を多く確保する。これらのスペースでは、宇宙や SDGs をテーマに様々な企画を行う。

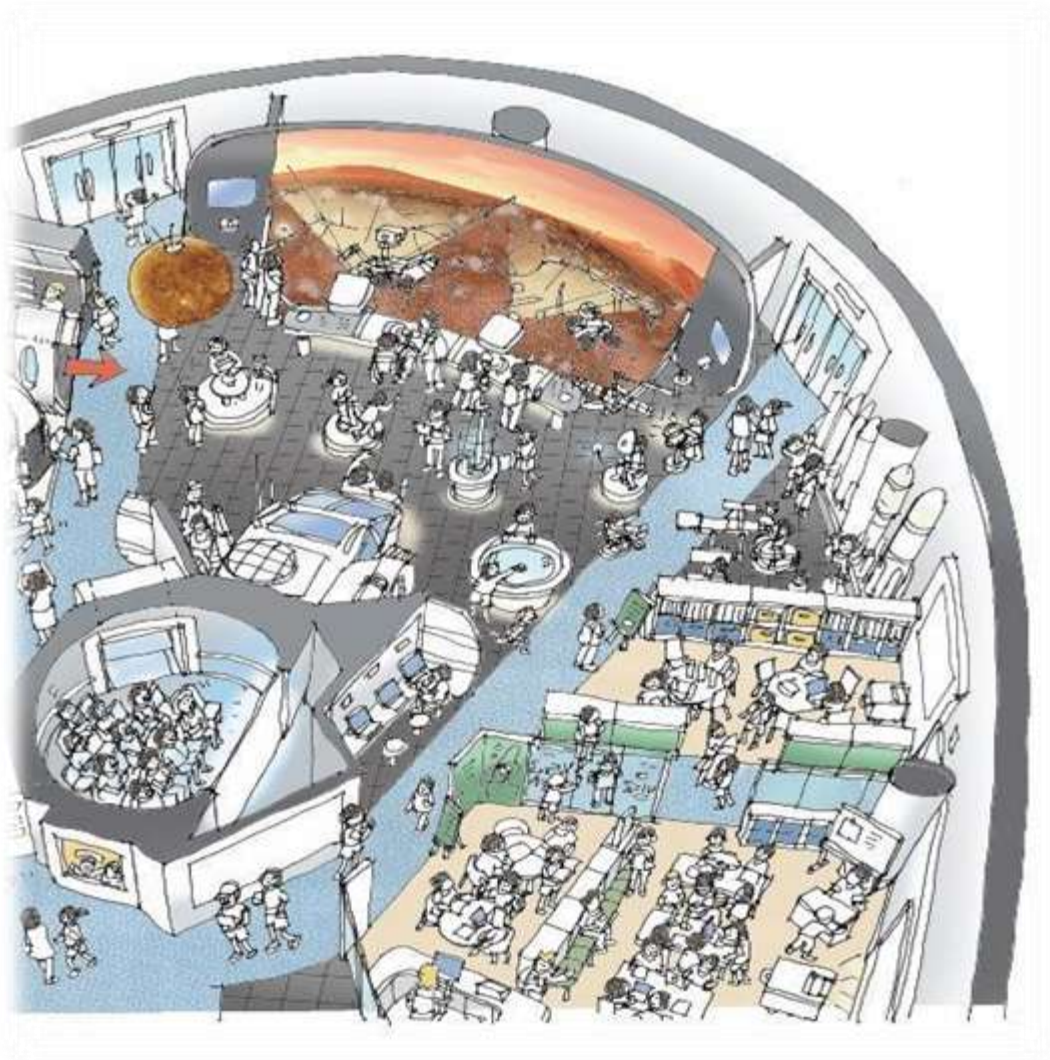


図 4-8 4 階フロアのリニューアルイメージ

第5章 泉ヶ丘公園の整備運営方針

1. 基本方針

泉ヶ丘公園は、里山の緑や多くの地域資源を持つことや、地域の子どもたちに利用されてきたことから、ビッグバン及び泉ヶ丘公園のコンセプトを実現するための、整備の基本方針を図 5-1 に示す。

公園としての魅力に加え、ビッグバンと一体的に活用することで、屋内外がシームレスにつながった新たな魅力を提供する。また、子どもたちが遊び、学び、社会を生き抜く力を身につける場とし、すべての人が訪れたいくなる公園とする。

テーマ「地球環境」：自然の中で遊び、学び、社会を生き抜く力を身につける	
1. ビッグバンとの 一体的な活用	- 公園とビッグバンを一体的な区域ととらえ、来訪者の施設間の円滑な移動を可能とし、ビッグバンが提供するプログラムと連携可能な公園として整備し、管理・運営する - 泉ヶ丘駅前からは、ビッグバンと公園の緑が一体となり、隣接する大蓮公園へとつながるまとまりのある緑地空間を形成する
2. 文化財を保存・ 活用し緑豊かな 空間と緑のネット ワークの形成	- 公園は、既存緑地やため池の保全・活用により、駅前の緑の拠点として整備する - 公園は、文化財を保存・活用し、後世に歴史的資源を継承する - 周辺の公園をつなぐ緑道と接続し、みどりのネットワーク化を図り、生活動線や駅前周辺の回遊性の向上のほか、生物多様性の保全を図る
3. 来訪者を受け入 れる環境の整備	- 来訪者へのサービス向上のため、アクティビティ施設の導入や駐車場の整備、ビッグバンと連携した自然体験・学習の提供を図る - 来訪者が安全に安心して利用できるよう休憩施設の充実やユニバーサルデザインを推進する - 周辺エリアからの円滑な動線の確保や、園内移動の快適性の向上に資する施設整備を行う

図 5-1 泉ヶ丘公園整備の基本方針

2. 利活用のイメージ

利活用に係る機能を表 5-1 に示す。都市公園としての一般的な機能だけでなく、ビッグバンと連携することによる子育て機能の強化や、歴史文化・自然環境を活かした SDGs の学びなど、多様なプログラムを行うことによる地域の活性化をめざす。

表 5-1 泉ヶ丘公園の利活用に係る機能

レクリエーション	①木々や水辺空間を利用した余暇活動の場としての機能 ②緑によるリラクゼーション、癒しの機能
子育て・学び	①子どもたちが自ら遊びを創造する場としての機能 ②里山の緑や文化財を活用した学びの場の提供
健康増進	①里山や池を活かし、アウトドア体験を提供する機能 ②ウォーキング等の周遊機能や緑道ネットワーク機能
コミュニティ	①市民の交流の場としての機能 ②ビッグバンや公園で活動する人たちの交流の場としての機能
地域の魅力向上	①周辺施設と連携したプログラムを行える場としての機能 ②様々な事業やイベント等で地域の魅力を向上する機能

景観形成に係る機能を表 5-2 に示す。里山の緑を活かし、隣接する大蓮公園との一体的な景観を形成する。また文化財や生物多様性といった貴重な資源を保全していく場とする。

表 5-2 泉ヶ丘公園の景観形成に係る機能

景観	①ため池の水辺と既存樹林の緑が一体となった里山的自然の景観形成 ②緑により四季の変化が織りなす潤いのある景観形成機能 ③大蓮公園等の周辺の緑への連続性を活かした景観形成
環境	①里山的環境を有する緑とため池の水辺環境の保全機能 ②文化財の保全のための緩衝機能 ③都市の生物多様性の確保に関する拠点機能

3. 整備運営方針

泉ヶ丘公園の整備運営方針を表 5-3 に示す。図 3-1 のゾーニング計画を軸としながら、各エリアのテーマに沿った機能を導入する。駅前に近く、最大の魅力である緑豊かで広大な空間を活用し、「地球環境」をテーマに自然環境や地形、百舌鳥古墳群に関連する歴史的資源を活かした、フィールドワークや遊びの機会を提供する。

表 5-3 整備運営方針

テーマ「地球環境」：自然の中で遊び、学び、社会を生き抜く力を身につける		
園路	公園全体の周遊が可能となる園路を整備する。これにより、周辺地域へのアクセス性も向上する	
冒険の森	■地球を活かし遊びを創造する 起伏や既存樹木を活用した遊具を整備し、普段体験できない自然の中の遊びや子どもが自由に体を動かせる場とする	
ふれあいの森	■人と地球との共存を学ぶ 里山の生態系を観察したり、里山管理の体験、自然の大切さや豊かさを体感することをとおして、SDGsや環境保全を学ぶ場とする	
陶邑広場	■人が生み出した文化を知る - 来訪者が休んだり、子どもが遊具で遊べる空間とする - 窯跡という歴史的資源を継承する場とする	

4. 動線計画

泉ヶ丘公園の動線計画を図 5-2 に示す。



図 5-2 泉ヶ丘公園動線計画

1) エントランス

① 北側エントランス（メイン）

泉ヶ丘駅利用者や駅前商業施設からのアプローチを考慮し、駅前のペデストリアンデッキからシームレスにつながるエントランスとする。また、ビッグバンの1階が市民に開かれた広場となることから、ビッグバンと行き来がしやすい空間とするだけでなく、館内外にまたがるイベントも開催できる空間とする。

② 南側エントランス（サブ）

公園南側の住宅地からの歩行者や大蓮公園来園者のアプローチを考慮し、日常的にストレスなく利用できるエントランスとする。水辺景観や文化財に配慮するほか、交通量が多いため歩行者の安全性に配慮した構造とする。

③ 東側エントランス（サブ）

ビッグバンの展望広場や、公園東側の住宅地からの歩行者のアプローチを考慮したエントランスとする。濁池に通じる園路の入り口でもあるため、緑の中に入りたくなるよう、周囲の景観に配慮した外観とする。

2) 園路（公園内外がシームレスにつながる）

園内の主動線は、ため池北側及び西側の既存通路やビッグバン南側を東西に通る既存通路を活かし、公園周辺の緑道とのネットワーク化を図り、隣接するビッグバンを含めた主要施設や樹林地をつなぐ動線とする。

駅前と周辺の緑道を結ぶ緑道機能を有する主園路は、幅員 3m 程度とし、バリアフリー基準に適合する園路とする。そのほかの園路は地形条件や環境保全、文化財保護等を考慮した幅員とする。

① 主園路

主園路は、泉ヶ丘駅からビッグバンを経由して公園南側の団地へとつながる園路とし、すべての人が通れるよう、すべて舗装されたバリアフリー園路とする。また、園内に点在する文化財や自然環境について学ぶ来訪者、日常の市民の生活動線や散策などの利用も想定する。

② 森の小道

森の小道は、濁池の東側に岸に沿って配置された園路であり、水面に近い位置から池を眺めることができる。里山の緑の中を通る園路であるため、地被植物等の保全のために基本的に自然を活かした構造・幅員とする。

5. ゾーニング

泉ヶ丘公園のゾーニングを図 5-3 に示す。

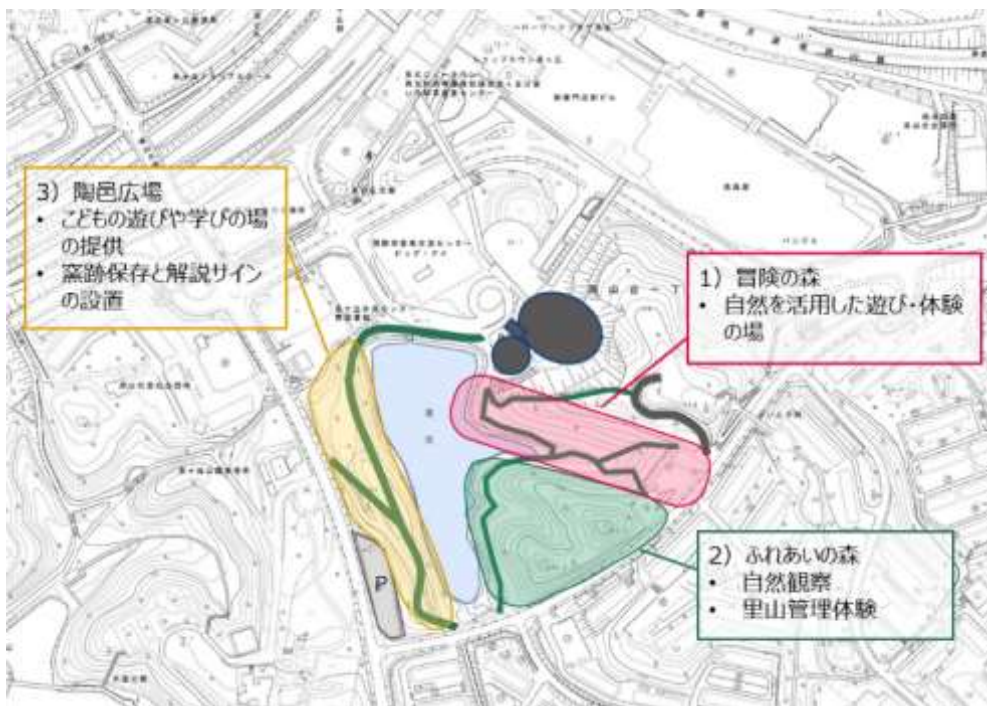


図 5-3 泉ヶ丘公園ゾーニング計画

1) 冒険の森（地球を活かし遊びを創造する）

冒険の森は、北側のエントランスからすぐの場所にある、子どもが普段体験できない自然を活用した遊び・体験を行うゾーンである。起伏や既存の樹木を活用した遊具を整備し、子どもが自由に体を動かせる場とする。ビッグバンから近い位置にあり、ビッグバンの屋外遊び場としての役割も果たすことができるため、ビッグバンから子どもを公園にいざなう機能を備える。



図 5-4 冒険の森

2) ふれあいの森（人と地球との共存を学ぶ）

ふれあいの森は、公園南東部にある、人の手がほとんど入っていない林のゾーンである。その特性を活用し、子どもたちが里山の生態系の観察や里山の管理の体験、自然の大切さや豊かさの体感をととして、SDGs や環境保全を学ぶ場とする。基本的に子どもだけで活動するのではなく、大人とともに学ぶ場として活用し、里山の管理方法を未来に受け継いでいく役割も果たす。濁池に面した箇所は森の小道が整備され、池を眺めながらビッグバン方面と大蓮公園方面を行き来できる空間とする。



図 5-5 ふれあいの森

3) 陶邑広場（人が生み出した文化を知る）

陶邑広場は濁池西側の主動線沿いにあり、窯跡が多く分布するゾーンである。泉ヶ丘公園においては比較的広い平地が確保できる場所であり、来訪者が休んだり、子どもが遊具で遊んだりできる空間とする。また、窯跡という歴史的資源を継承する場でもあり、窯跡の案内サインの設置、歴史に関する屋外ワークショップを開催する。こうした機能を主動線沿いに配置することにより、より多くの人に歴史について理解を深めてもらうことをめざす。

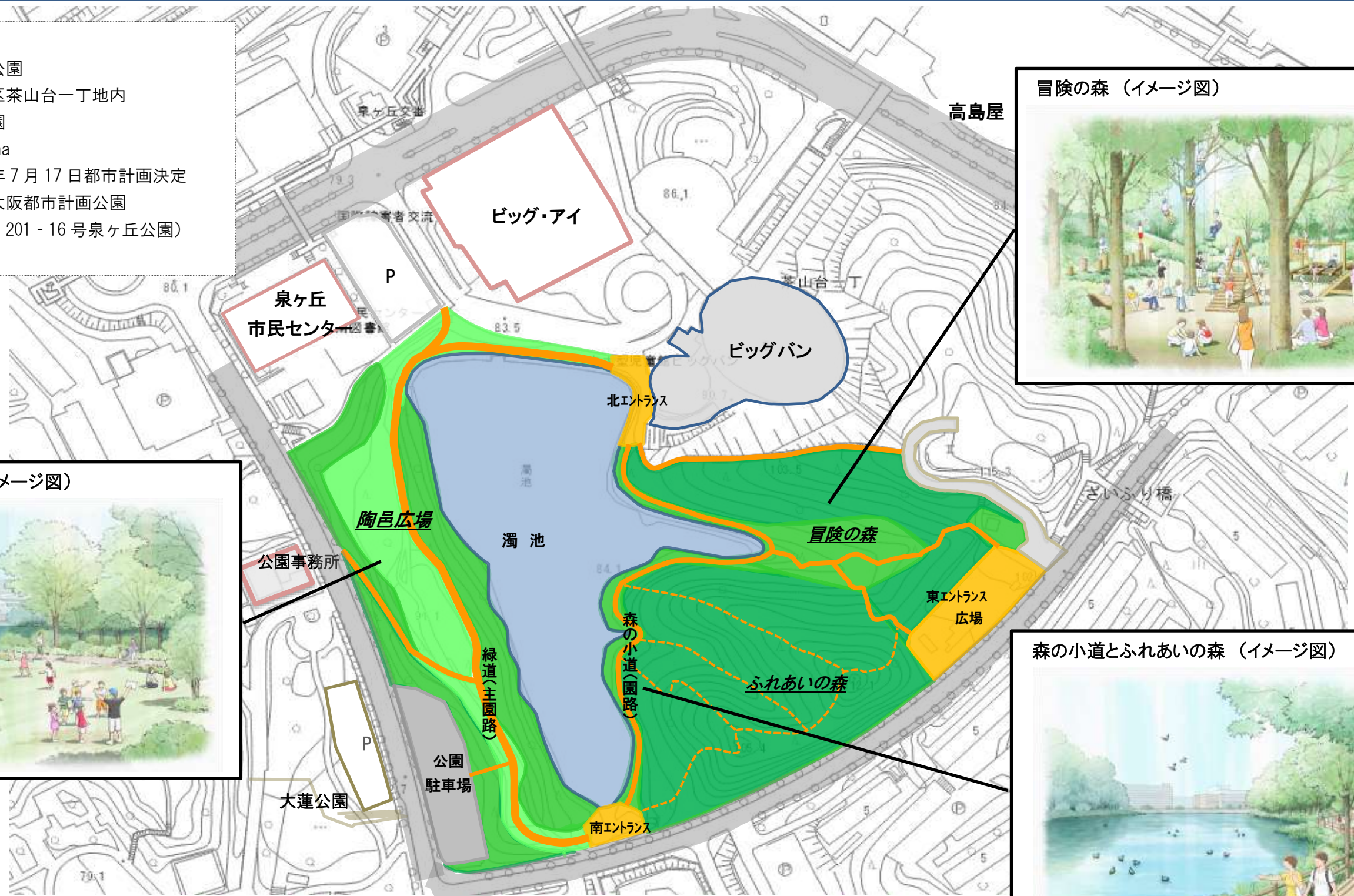


図 5-6 陶邑広場

泉ヶ丘公園整備基本計画(概要平面図)

■公園の諸元

名 称：泉ヶ丘公園
 所 在 地：堺市南区茶山台一丁目内
 種 別：地区公園
 計画面積：約 5.50ha
 都市計画：令和元年 7 月 17 日都市計画決定
 南部大阪都市計画公園
 (4・4・201 - 16 号泉ヶ丘公園)



冒険の森 (イメージ図)



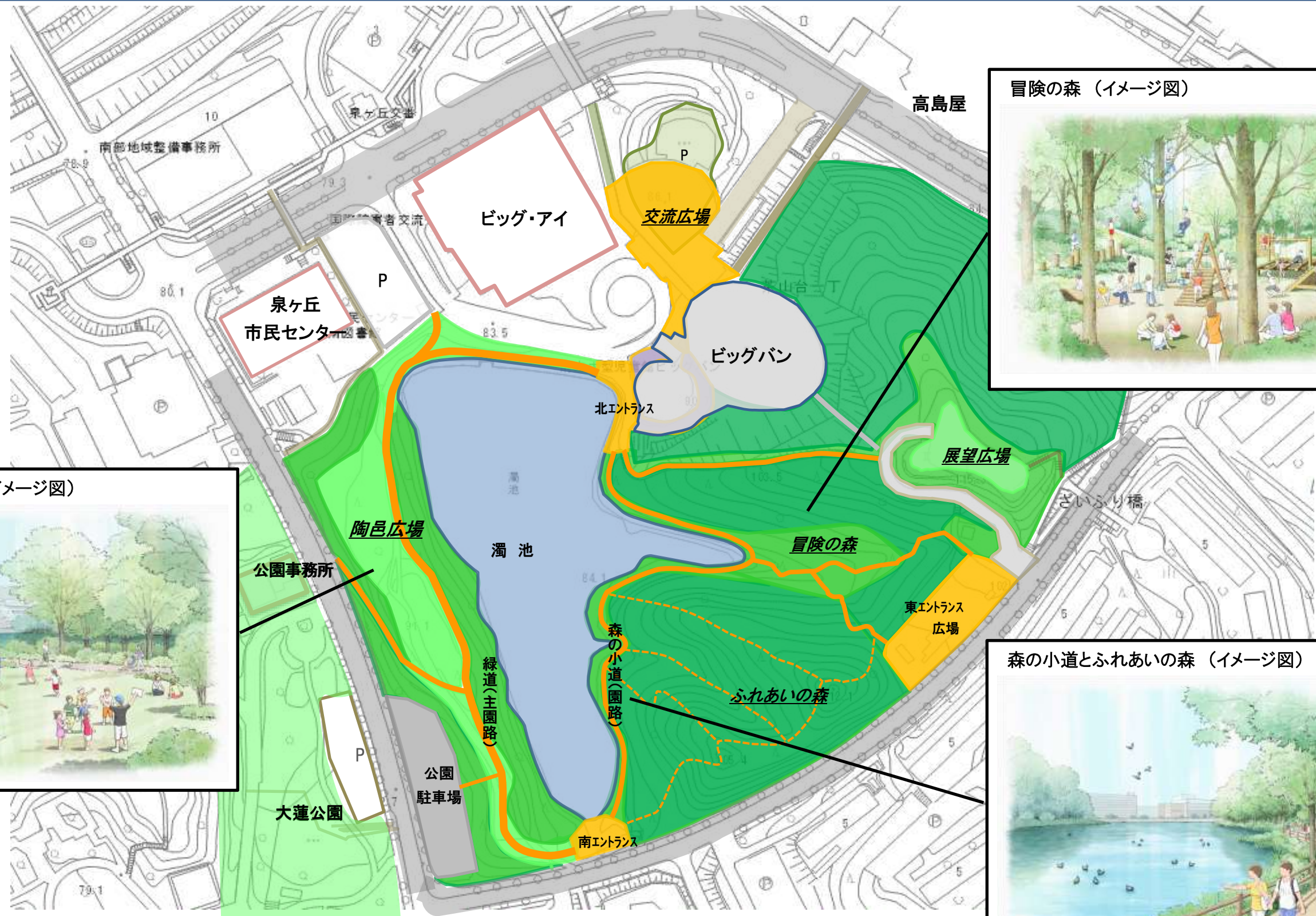
陶器広場と緑道 (イメージ図)



森の小道とふれあいの森 (イメージ図)



泉ヶ丘公園とビッグバン(概要平面図)



冒険の森 (イメージ図)



陶邑広場と緑道 (イメージ図)



森の小道とふれあいの森 (イメージ図)



第6章 民間活力導入検討の背景及び事業手法

1. 民間活力導入検討の背景

ビッグバン及び泉ヶ丘公園の一体活用の実現にあたり、両施設の持つ特性や機能を最大限に発揮し、より効果的な管理運営を行っていくため、民間事業者の資金・ノウハウの導入の可能性について検討を進めてきた。

ビッグバンは、その施設の特性から小学校低学年以下の子どもたちの利用が中心となっており、ソフト事業の拡充や段階的な展示改修等により、一定の利用者層の増加は見込まれるものの、民間事業者が展示改修・運営費用を投資・回収できる事業モデルは成り立ち難い。また、泉ヶ丘公園についても、敷地内に多数の歴史的文化資源が埋蔵されている可能性が高く、地形に高低差を有する特性から、民間事業者の投資・回収が成立する可能性は低い状況である。

あわせて、当面は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による民間事業者の投資意欲減退が継続すると予測され、民間事業者の投資は大変厳しい状況である。

このような状況を踏まえ、本事業を進めるにあたり、基本的な施設の整備費用は市が負担し、運営について民間事業者のノウハウを最大限活用して、利用者の増加や魅力あるソフト事業・物販機能の強化等により収益増を図り、運営費用について市の負担を最小限に行っていくものである。

2. 事業手法

1) ビッグバン

展示設計・改修及び管理運営に民間の経営能力や技術能力等のノウハウを活用する。多様なニーズへの対応と効果的な運営による来館者の増加に資するため、展示設計は民間の企画提案、管理運営は指定管理者制度の活用を図る。

2) 泉ヶ丘公園

園内の設計・整備は市で行い、管理運営に民間のノウハウを活用するため、指定管理者制度の導入を図る。

3. 今後のスケジュール

令和4年3月	泉ヶ丘公園基本設計
令和4年度	泉ヶ丘公園実施設計
令和5年度	第2期指定管理者募集・決定／泉ヶ丘公園工事
令和6年度	第2期指定管理者運営開始（3年間）／泉ヶ丘公園工事 泉ヶ丘公園の供用開始部分から順次一体的な活用を開始
令和7年度	ビッグバンと泉ヶ丘公園の一体的活用の全面的な開始

ビッグバン及び泉ヶ丘公園基本計画

発行日 2022 年 3 月

発 行 堺市 泉北ニューデザイン推進室 〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号

TEL 072-228-7530／FAX 072-228-6824

HP <https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/senbokusaisei/index.html>

堺市配架資料番号 1-J1-21-0309

